

社会学部

氏名 藤林正雄 (FUJIBAYASHI Masao)

所属 社会学部 社会学科

職名 教授

生年月日 1956 年5 月11 日

[履 歴]

[学歴]

1979年3月 東北福祉大学社会福祉学部福祉心理学科卒業

[学位]

社会学士

[職歴]

1979年5月 布施病院精神科ソーシャルワーカー

2000年4月 医療法人社団清泉会 精神障害者地域生活支援センター施設長 (兼精神保健福祉士)

青森大学社会学部社会福祉学科非常勤講師

「精神科リハビリテーション学」

2002年4月 青森大学社会学部社会福祉学科助教授

2007年4月 青森大学社会学部社会福祉学科教授

2015年4月～ 青森大学社会学部社会学科教授

2011年～現在 青森市高等看護学院非常勤講師 「精神保健」 (精神看護概論)

[受 賞]

[所属学会]

日本精神保健福祉士協会・学会、日本マイクロカウンセリング学会、日本老年行動科学会、東北精神保健福祉学会

[教育活動]

[担当科目]

精神保健福祉援助演習 (専門) I、精神保健福祉援助演習 (専門) II、精神保健福祉援助実習指導 I、精神保健福祉援助実習指導 II、精神保健福祉援助実習指導 III、精神保健福祉援助実習、精神保健福祉相談援助の基盤 (基礎)、精神保健福祉相談援助の基盤 (専門)、低所得者に対する支援と生活保護制度

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

2015年 社会学演習 V・VI 5名

[教育指導に関する特記事項]

- 1, 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験支援のため、補講・指導を行っている。
- 2, 就職活動、対人関係の悩みなど学生からの相談に応じ支援をしている。
- 3, 入学予定者へのレポート課題に対する指導を行っている。

4. 学生募集のためのオープンキャンパス・大学見学会で、模擬授業を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 精神保健福祉援助実習の効果的な学習のために実習前、実習中、実習後の指導について現場実習指導者アンケート、学生アンケート、社会福祉援助技術実習指導との比較から研究している。
- (2) 精神保健福祉士の援助技術として基礎となる効果的なコミュニケーションの方法、面接技法に関について、加えて援助関係構築の条件を関係のプロセスから研究している。
- (3) メンタルヘルス、特にストレスと心理的不調関係性とその軽減の方法について研究している。これまで、心の健康アンケート調査、ケアマネージャーのバーンアウト等を報告している。
- (4) 精神保健福祉ボランティアの育成、特にボランティア育成の契機となる効果的な学習プログラムに関する研究とボランティア活動の継続に必要な条件について研究している。
また、自殺予防のための傾聴講座を効果的に教授するためのプログラムづくりの研究もしている。
- (5) 電話相談を効果的に実施し継続するための方法及び相談員育成と継続的学習、特に自殺予防としての電話相談の効果について研究している。

[著書、論文、総説]

- ・日本精神保健福祉士養成校協会編集・分担執筆「バウンダリーの理解」第8巻精神保健福祉士援助演習(基礎・専門)第2版2016 中央法規p46-49
- ・日本精神保健福祉士養成校協会編集・分担執筆「逆抵抗の防止」第8巻精神保健福祉士援助演習(基礎・専門)第2版2016 中央法規p50-55

[研究費の取得状況]

「対人援助スキル向上のための実践的研究～松丘保養園訪問実践を通して～」2015 青森大学教育研究プロジェクト 藤林正雄、田中志子、宮川愛子

[その他の活動]

[出張講義]

- 2015年7月22日「ストレスに対処する」平内町教育委員会
- 2015年9月16日「心を動かす傾聴力」黒石市
- 2015年9月17日「精神障害者の就労と継続に向けて」高齢・障害・求職者雇用支援機構青森県支部
- 2015年11月6日「ストレスに対処する」青森市教育委員会
- 2015年12月22日「人間関係で悩まないために」青森県立青森工業高校
- 2016年11月25日「人間関係で悩まないために」岩手県立久慈被害市高等学校
- 2017年9月2日・10月1日・10月15日・11月5日 青森県身体障害者福祉協会「傾聴を学ぶ」弘前市、むつ市、青森市、八戸市
- 2017年9月11日 弘前市地域自立支援協議会 相談支援専門部会研修「ソーシャルワーカーとしての相談支援専門員」
- 2017年9月19日 野辺地町生涯学習大学「人間関係で悩まないために」
- 2017年11月28日 大野公民館「ストレスに対処する」
- 2017年12月19日 荒川市民センター「傾聴を学ぶ」

[公開講座、講演、ゼミナー]

2015年1月29日「傾聴技法」青森県犯罪被害者支援センター
2015年3月17日「ゲートキーパー研修会～医療関係者のための～」藤崎町
2015年5月22日「藤崎町傾聴講座フォローアップ研修」藤崎町
2015年5月23日「精神保健福祉法と人権」日精看青森県支部
2015年6月8日「地域包括ケアについて一意味・目的・方向性」和幸園
2015年6月16日「社会福祉援助技術総論」社会福祉主事講習 青森保健大学
2015年7月3日「十和田市職員向けゲートキーパー研修会」十和田市
2015年7月14日「精神障害者のある利用者の理解と苦情への対応」青森県社会福祉協議会
2015年8月6日「黒石市傾聴講座フォローアップ研修」黒石市
2015年8月25日「平川市ゲートキーパー研修会」平川市
2015年9月1日「気づき、聴く力を磨く～大切な人の命を守るためにできること」弘前市民生委員会生活老人部会
2015年9月2日、7日、15日、24日、10月19日「黒石市傾聴講座」黒石市
2015年10月1日「青森市ゲートキーパーフォローアップ研修」青森市
2015年10月8日「十和田市員向けゲートキーパー研修会」十和田市
2015年10月13日、22日、27日、11月10日、24日、12月8日「平川市傾聴講座」平川市
2015年10月15日「精神障害者の理解と対応」青森地方法務局
2015年10月29日「三沢市ゲートキーパーフォローアップ講座」三沢市
2015年11月7日「藤崎町ゲートキーパー研修会」藤崎町
2015年11月8日・29日「五所川原市ゲートキーパー研修会」五所川原市、ほほえみの会
2015年11月25日「精神障害者の理解と対応」八甲学園
2015年11月27日相談技法研修会「相手に寄り添い、心で聴く相談技法」青森県社会福祉協議会
2015年12月3日・10日・2016年1月7日「七戸町ゲートキーパー研修会」七戸町
2016年1月28日「七戸町相談窓口連携会議ゲートキーパー研修」七戸町
2016年2月27日「第三者評価事業の活用」青森県第三者評価推進委員会
2016年5月17日・6月21日「傾聴講座」秋田県三種町社会福祉協議会
2016年6月22日「社会福祉援助技術総論」社会福祉主事講習 青森保健大学
2016年8月25日「ゲートキーパーの心得と技術」階上町
2016年8月27日・9月10日・17日「福祉サービス第三者評価調査者養成研修」青森県社会福祉協議会
2016年8月29日・9月2日・30日・10月21日・28日・11月7日（6回）
「傾聴講座」黒石市
2016年9月1日「ゲートキーパー研修」NPO法人スマイルラボ 十和田市
2016年10月11日「ゲートキーパーフォローアップ研修」青森市保健所
2016年10月25日「精神障害者への対応」青森地方法務局
2016年11月11日「ゲートキーパー研修」六ヶ所村
2016年11月22日・12月6日・13日「傾聴講座」（3回）七戸町
2016年11月26日・27日「精神障がい者の理解と対応」知的障害者相談員研修会 青森県手をつなぐ育成会
2016年12月17日「サインに気づく・ゲートキーパーの役割」青森県医師会
2017年1月20日・27日・2月3日・22日「五所川原市傾聴講座」（3回）五所川原市
2017年2月14日「平川市自殺対策研修交流会」平川市
2017年3月21日 学校教職員研修「ゲートキーパーの役割」階上町
2017年5月25日 三戸郡学校保健会「人間関係を考える」南部町
2017年9月1日・8日・29日 黒石市自殺対策「傾聴講座」
2017年9月6日・13日・22日六ヶ所村自殺対策「傾聴講座」

2017年10月24日 青森ゲートキーパー講座フォローアップ編
2017年10月24日 青森法務局「精神障害者の理解」
2017年11月7日 藤崎町医療・介護・福祉ネットワーク研修会「精神障害を抱えた高齢者との関わり方」
2017年11月17日・24日・12月8日 七戸町ゲートキーパー講座
2017年11月18日・19日青森県手をつなぐ育成会「精神障がいを合わせ持つ本人への接し方」弘前市、八戸市
2017年11月25日 弘前市地域精神障害者事業所研修会「ソーシャルワーカーとしての相談支援専門員」
2018年1月18日 中泊町自殺対策「ストレスのことを知ってこころも体も健康だ!」
2018年3月8日 藤崎町ゲートキーパー研修フォローアップ研修
2018年2月22日 五所川原市ゲートキーパー研修フォローアップ
2018年2月23日 「青森しあわせネット」タウンミーティング講師
2018年2月27日 平川市ゲートキーパー研修フォローアップ
2018年3月8日 藤崎町ゲートキーパー研修フォローアップ

[学内各種委員]

2015年～2017年度

倫理・社会調査委員会、入試委員会（社会学部）、社会学部入試委員会、社会学部国家試験対策委員会、社会学部教務委員会

[学外各種委員]

青森県精神医療審査会委員
青森県運営適正化委員会委員（苦情解決部会）
青森県福祉サービス第三者評価調査推進委員会委員
福祉サービス第三者評価調査者
青森県精神保健福祉会評議員
社会福祉法人「花」理事
NPO法人あおもりのちの電話理事・事務局長
医療観察法参与員
地域密着型サービス外部評価審査委員会委員
つがる地域障害者自立支援協議会委員
青森県国民健康保険団体連合会 介護サービス苦情処理委員
青森県すこやか福祉事業団評議員
五所川原市社会福祉協議会評議員

氏名 田中 志子 (TANAKA Sachiko)

所属 社会学部 社会福祉学科

職名 教授

生年月日 1973年5月27日

[履歴]

[学歴]

1997年3月 東北福祉大学社会福祉学部社会福祉学科 卒業

1999年3月 東北福祉大学大学院福祉学研究(修士課程)修了

[学位]

社会福祉学修士

[職歴]

1997年4月～1998年3月

学校法人城東学園 弘前ホスピタリティーアカデミー介護福祉科 助手

1998年4月～1999年3月

宮城県教育委員会教育研修センター 電話教育相談員(非常勤)

1999年4月～2007年3月

青森県立保健大学 健康科学部 社会福祉学科 助手

青森県事務吏員兼務(青森県立中央病院)(2000年6月～2002年3月)

2007年4月～2009年3月

学校法人ノースアジア大学 秋田看護福祉大学 看護福祉学部 社会福祉学科 講師

2009年4月～2010年3月

青森大学社会学部社会福祉学科 (非常勤講師)

弘前学院大学社会学部社会福祉学科(非常勤講師)

青森明の星短期大学現代介護福祉学科(非常勤講師)

2010年4月

青森大学社会学部社会福祉学科 講師

2012年4月

青森大学社会学部社会福祉学科 准教授

[所属学会]

日本社会福祉学会、日本社会福祉士学会

[教育活動]

[担当科目]

障害者に対する支援と障害者自立支援制度、相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、相談援助の基盤と専門職Ⅱ、ソーシャルワーク演習A・B・C・D、ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ

[ゼミ指導]

なし

[教育指導に関する特記事項]

1, 社会福祉士国家試験支援のため、補講を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 入所型社会福祉施設におけるソーシャルワーク業務について
- (2) 滞日外国人支援に関する研究
- (3) ハンセン病問題

[学会発表]

[研究費の取得状況]

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

- 国立療養所松丘保養園松桜会主催公開講座【まなびの杜】司会（4月23日、5月28日）
- 社会福祉士養成校協会東北ブロック主催国家試験受験対策講座「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」講師（12月18日）
- 青森大学冬季教職員研修会「障害者差別解消法について」（12月22日）
- （公社）青森県社会福祉士会東青支部主催公開講座「成年後見講座 後見人に求めること、後見人が求めること」シンポジウム コーディネーター（2月18日）
- （公社）青森県社会福祉士会ハンセン病問題支援部会主催勉強会「ハンセン病問題に社会福祉士が関わる意義」報告者（3月20日）

[学内各種委員]

教務委員会

国家試験対策委員会（学科内）

入試実施委員会

学生募集タスクフォース

地域貢献センター委員

教学タスクフォース

FD委員会

氏名 安藤 清美 (ANDO Kiyomi)

所属 社会学部社会学科

職名 教授

生年月日 1962年4月26日

[履歴]

[学歴]

- 1987年3月 亜細亜大学法学部法律学科卒業
- 1994年3月 亜細亜大学大学院法学研究科博士前期課程修了
- 1998年3月 帝京大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学

[学位]

法学修士

[職歴]

- 1987年4月 NTT System Service(株)第1システム部 (1989年3月まで)
- 1989年4月 (有)安藤建設取締役 (現在に至る)
- 1997年9月 教員組織審査 青森中央学院大学経営法学部専任講師
(民法総則、基礎演習、専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、外書講読)
- 1998年4月 青森中央学院大学経営法学部専任講師 (2004年3月まで)
(民法総則、親族相続法、債権各論、基礎演習、専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、
外書講読)
- 2000年9月 中央大学法学部通信教育部非常勤講師 (民法、2001年3月まで)
- 2001年4月 弘前大学人文学部非常勤講師 (家族法、2004年3月まで)
- 2001年4月 青森公立大学経営経済学部非常勤講師 (民法、2003年3月まで)
- 2002年11月 教員組織審査 弘前学院大学大学院社会福祉学研究科人間福祉専攻
兼任講師 (家族法特論)
- 2003年4月 弘前学院大学大学院社会福祉学研究科人間福祉専攻兼任講師
(家族法特論、2009年度より社会福祉法制特論) (現在に至る)
- 2003年11月 教員組織審査 東京法科大学院助教授マル合 (家族法、演習)
- 2004年4月 青森大学社会学部助教授
- 2004年9月 青森県営農大大学校非常勤講師 (法学、2006年3月まで)
- 2005年4月 青森県立保健大学社会福祉主事認定講習会講師 (福祉法学 (民法))
(2006年、2014年～現在に至る)
- 2010年4月 青森大学社会学部教授 (現在に至る)

[所属学会]

日本私法学会、日本家族(社会と法)学会、青森法学会

[教育活動]

[担当科目] (2017年度)

法学(国際法含む)、日本国憲法、民法、権利擁護と成年後見制度、学問のすすめ、社会学演習V・VI、卒業論文、卒業論文指導I・II

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

2005年度 1年ゼミ 20名
2009年度 4年ゼミ 19名
2010年度 4年ゼミ 12名
2011年度 4年ゼミ 9名
2012年度 4年ゼミ 13名、2年ゼミ 8名
2015年度 4年ゼミ 7名
2016年度 4年ゼミ 8名
2017年度 4年ゼミ 3名

[教育指導に関する特記事項]

1. 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験支援のため特講を行っている。
2. 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験、公務員試験、教員採用試験等を目指す学生は勿論、就職試験対策としても有用となるよう過去問や法学検定試験4級・3級問題を参考に演習問題集(A4-18頁, A4-14頁等)を作成し、予習復習等に活用している。
3. 法学部生ではない学生が理解しやすいようポイントや重要判例等につきレジュメを作成し配布している。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 遺言の方式
- (2) 選択的夫婦別氏制
- (3) 医療過誤

[著書、論文、総説]

(著書)

1. 『入門 民法総則』法学書院(東京)2015年
2. 『民法総則・親族相続法24講』文教出版会(東京)2001年(担当箇所:第12講～第24講62-171頁)

(主な論文等)

1. 「遺言者が自筆証書である遺言所の文面全体に恋に斜線を引く行為が民法1024条前段所定の「故意に遺言書を破棄したとき」に該当し遺言を撤回したものとみなされた事例」『判例時報』第2308号(判例評論694号)
2. 「自筆証書遺言の方式に関する一考察 - 遺言能力をも視野に入れて - 」『青森大学・

青森短期大学研究紀要』第 33 巻第 3 号

3. 「選択的夫婦別氏制に関する一考察」『青森大学・青森短期大学研究紀要』第 32 巻第 1 号
4. 「豊胸手術の際に切開位置を誤った過失が認められ、これによる慰謝料等の損害賠償請求が認容された事例」『青森大学・青森短期大学研究紀要』第 29 巻第 1 号
5. 「陣痛促進剤投与による過強陣痛により生じた胎児仮死について、分娩監視義務を怠った過失があるとして、病院側の不法行為責任が認められた事例」『青森大学・青森短期大学研究紀要』第 27 巻第 1 号
6. 「近時における自筆証書遺言の方式をめぐる判例の動向」『法律のひろば』第 54 巻第 11 号(ぎょうせい)
7. 「夫婦間の日常家事債務と代理権の有無」『銀行法務 21』第 527 号(経済法令研究会)

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1. 「成年後見制度の活用に向けた今後の流れ、課題等について」国土交通省「高齢化社会への対応を踏まえた用地補償と民法に関する講演会」用地関係法人連絡会(2016年10月5日)
2. 「民法学の立場から福祉を考える - 遺言 - 」五戸町教育委員会・五戸町民大学講座(2014年2月21日)
3. 「権利擁護と成年後見制度 - 個人の尊厳を支え、権利を擁護するということ - 」平成 25 年度青森県社会福祉協議会市民後見人登録者研修会・社会福祉法人 青森県社会福祉協議会(2013年10月28日)
4. 「民法学の立場から福祉を考える - 夫婦別姓、遺言 - 」平川市(2012年7月26日)
5. 「遺言の書き方と手続き」青森大学オープンカレッジ市民大学(2010年9月17日)
6. 「身近な法律～遺言の知識」社団法人青森県高齢・障害者雇用支援協会(2009年11月20日)
7. 「知っておきたい相続の概要」青森大学オープンカレッジ市民大学(2009年7月10日)
8. 「民法学の立場から福祉を考える - 夫婦別姓、遺言 - 」五所川原市教育委員会・寿大学(2008年9月25日)
9. 「法と裁判 - 裁判員制度を中心として - 」青森大学オープンカレッジ市民大学(2008年6月27日)
10. 「民法学の立場から福祉を考える - 夫婦別姓 - 」青森大学オープンカレッジ市民大学(2007年9月28日)
11. 「身近な法律 - 夫婦別姓、医療過誤 - 」(社)青森県社交ダンス教師協会定期研修会

(2007年1月28日)

12. 「民法学の立場から福祉を考える - 夫婦別姓、遺言 - 」平川市・創年アカデミー(2007年1月25日)
13. 「民法学の立場から福祉を考える - 遺言 - 」青森大学オープンカレッジ市民大学(2006年6月2日)
14. 「民法学の立場から福祉を考える - 遺言 - 」中央大学法学部通信教育課程学生会函館支部(2005年12月4日)
15. 「民法学の立場から福祉を考える - 夫婦別姓 - 」中央大学法学部通信教育課程学生会函館支部(2004年12月5日)

(その他)

1. 青森県住宅供給公社横領事件(チリ人妻のために14億円横領)に関する訴訟につき、青森朝日放送のニュース番組にコメントを寄せる(2006年2月27日、28日)

[学内各種委員]

1. 学術研究会(2004年4月1日～現在)
2. ハラスメント防止対策委員会委員(2004年4月1日～現在)
3. 入学試験作題委員・採点委員
(2005年、2006年、2009年、2012年、2013年、2017年)
4. 教務委員会委員(2005年4月1日～2007年3月31日)
5. 組換えDNA実験安全委員会委員(2013年4月1日～現在)
6. 医の倫理委員会委員(2014年4月1日～現在)

[学外各種委員]

1. 青森県情報公開審査会委員(2000年1月～2006年1月)
2. 青森県介護等体験実施連絡協議会委員(2000年9月1日～2002年8月31日)
3. 青森家庭裁判所委員会委員(2002年6月1日～2008年5月31日)
4. 青森県土地収用事業認定審議会副会長(2002年7月10日～2012年7月9日)

[その他]

1. 次世代発展総合研究所副所長(2015年12月～現在に至る)
2. 研究誌論文審査
『青森法政論叢』(青森法学会) 第11号投稿論文審査(2010年)
第12号投稿論文審査(2011年)
第15号投稿論文審査(2014年)
第16号投稿論文審査(2015年)
第17号投稿論文審査(2016年)

氏名 柏谷 至 (KASHIWAYA Itaru)

所属 社会学部社会学科

職 種 教授

生年月日 1966年6月22日

[履 歴]

[学 歴]

- 1989年3月 筑波大学第1学群社会学類卒業
- 1989年4月 筑波大学大学院社会科学研究科社会学専攻入学 (5年一貫制)
- 1991年3月 同研究科に中間評価論文を提出。社会学修士号を取得
- 1996年3月 同研究科単位取得退学

[学 位]

社会学修士

[職 歴]

- 1992年4月 日本学術振興会特別研究員 (1994年3月まで)
- 1992年4月 茨城県きぬ看護専門学校 非常勤講師 (担当科目:社会学・社会病理、1997年3月まで)
- 1996年8月 筑波大学文部技官 (社会科学系担当・準研究員。1999年2月まで)
- 1997年4月 流通経済大学社会学部非常勤講師 (担当科目:環境社会学。1999年3月まで)
- 1999年3月 筑波大学社会科学系助手 (同年3月31日まで)
- 1999年4月 青森大学社会学部専任講師
- 2000年4月 青森公立大学非常勤講師 (担当科目:社会と人間。2004年9月まで)
- 2003年4月 青森大学大学院環境科学研究科を兼務 (2013年3月まで)
- 2006年4月 青森大学社会学部助教授
- 2007年4月 青森大学社会学部准教授
- 2012年4月 青森大学社会学部教授 (現在に至る)。社会学科長 (2013年3月まで)
- 2012年12月 青森大学地域貢献センター長 (2016年3月まで)

[受 賞]

特になし

[所属学会]

環境社会学会

[教育活動]

[担当科目] (2017年度)

社会学概論 I (コーディネーター)、社会学概論 II (分担)、社会調査論 I・II、環境社

会学Ⅰ・Ⅱ(分担)、応用社会学、社会学演習Ⅲ・Ⅳ(分担)、社会学演習Ⅴ・Ⅵ、卒業論文指導Ⅰ・Ⅱ(分担)、卒業論文(分担)

[卒業研究指導] (過去5年間)

2017年度: 2名

2016年度: 3名

[ゼミ指導] (過去5年間)

2017年度: 15名(3年生13名、卒業論文指導2名)

2016年度: 7名(3年生3名、卒業論文指導4名)

2015年度: 15名(3年生・前期のみ)

[教育指導に関する特記事項]

1. 担当科目のうち、「社会学概論Ⅱ」、「社会調査論Ⅰ・Ⅱ」は、社会福祉士国家試験受験資格の科目認定を受けている。
2. 担当科目のうち、「社会調査論Ⅰ・Ⅱ」と「応用社会学」は社会調査士資格(一般社団法人社会調査協会)の科目認定を受けている。
3. 担当科目「環境社会学Ⅰ・Ⅱ」では、青森県平内町教育委員会の「ハクチョウのまち再生事業」と連携し、平内町浅所地区の自然環境を活かしたまちづくりについて、調査および学生による提案をまとめることを目指している。

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 地域社会における地球温暖化対策
2. 再生可能エネルギー普及と地域の内発的発展
3. 地域社会における合意形成と市民活動

[著書、論文、総説] (過去5年間)

(著書)

1. 環境エネルギー政策研究所(編) 2014『地域の資源(ヒト・ワザ・カネ)を活かす再生可能エネルギー事業』金融財政事情研究会(担当箇所:第2章「地域の資源を活かす」p.65-110).

(論文)

1. 石橋修・柏谷至・佐々木てる・田中志子・小久保温・坂井雄介 2015「郊外型住宅団地の課題と電子エコマネーの可能性—青森市・幸畑団地の事例—」『八戸学院大学紀要』51:1-11, 八戸学院大学.
2. 小久保温・柏谷至・石橋修・櫛引素夫・坂井雄介・佐々木てる・田中志子 2016「エコマネーWebプラットフォームのドメインモデルの設計」『青森大学付属総合研究所紀要』17(1):23-31, 青森大学付属総合研究所.

3. 中村 和生・柏谷 至・渋谷 泰秀・佐々木 てる 2013 「『フレーム』概念の検討—環境配慮行動の分析にむけて」『青森大学・青森短期大学研究紀要』35(3):73-94, 青森大学学術研究会.

(報告書)

1. 青森県教育庁生涯学習課(編) 2017 『若者の学習・生活体験と県内定住に関する県民の意識調査報告書』 (平成 28 年度生涯学習・社会教育総合調査研究事業) 青森県教育長生涯学習課 (全 69p).

【担当箇所】第3章Ⅱ「青森県に生活する若者の自己有用感」(p.33-39).

2. 青森県教育庁生涯学習課(編) 2016 『学習活動に関する県民の意識調査報告書』 (平成 27 年度生涯学習・社会教育総合調査研究事業) 青森県教育長生涯学習課 (全 52p).

【担当箇所】第3章「考察 5~9」(p.32-35).

3. 石橋 修(編) 2016 『電子エコマネーを活用したボランティアコーディネート支援ツールの開発』平成 25~27 年度科学研究費助成事業基盤研究 C (課題番号:25381089) 報告書.

4. 北部上北連携バス交通対策検討委員会 2014 『公共交通活性化調査業務報告書』北部上北連携バス交通対策検討委員会 (野辺地町・横浜町・六ヶ所村)

【担当箇所】第3章4「アンケート調査」、第3章5「パーソントリップ調査」(p.25-44).

[学会発表] (過去5年間)

1. 櫛引 素夫 (代表)・石橋 修・柏谷 至・佐々木 てる・田中 志子・小久保 温・坂井 雄介「郊外型住宅団地の地域課題とコミュニティ再生・活性化—青森市・幸畑団地の事例」東北地理学会春季学術大会, 仙台市戦災復興記念館 (仙台市), 2015 年 5 月 16 日.
2. 小久保 温・角田 均・伊藤 匠・織田 将史・三上 絢佳・今 北斗・柏谷 至・工藤 雅世・坂田 令「学生のセルフ・マネジメントのためのゲーミフィケーション・アプリケーションの開発」情報処理学会第 77 回全国大会 3F-05, 2015 年 3 月 18 日.
3. 小久保 温・渋谷 泰秀・柏谷 至・吉村 治正・渡部 諭「ウェブ社会調査におけるデバイスによる反応の相違に関する研究」情報処理学会第 77 回全国大会 3F-01, 2015 年 3 月 18 日.

[研究費の獲得状況] (過去5年間)

1. 日本学術振興会・課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業 (領域開拓プログラム)「地域に資する再生可能エネルギー事業開発をめぐる持続性学の構築」(研究分担者。研究代表者:西城戸誠・法政大学教授), 11,400 千円 (総額), 2014 年 10 月~17 年 9 月.

2. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C)「人口減少社会の外国人統合政策～青森県における外国籍者の事例から～」(研究分担者。研究代表者：佐々木てる・青森大学教授), 3,300 千円 (総額), 2014～16 年度.
3. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C)「電子エコマネーを活用したボランティア・コーディネート支援ツールの開発」(研究分担者。研究代表者：石橋修・八戸学院大学教授), 3,800 千円 (総額), 2013～15 年度.
4. 財団法人青森学術文化振興財団「郊外型住宅団地における地域課題とコミュニティ再生に関する調査研究事業」(研究分担者。研究代表者：菅勝彦・青森大学教授), 402 千円, 2013 年度.
5. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C)「環境配慮行動における文化的フレームと意思決定モデルとの統合的アプローチ」(研究代表者), 4,200 千円 (総額), 2012～14 年度.
6. 文部科学省科学研究費 (挑戦的萌芽研究)「原発事故に伴う広域避難と支援の社会学—『転換後』の社会像と生き方モデルの探求」(研究分担者。研究代表者：後藤範章・日本大学教授), 2,800 千円 (総額), 2012～13 年度.

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー] (過去 5 年間)

1. 「青森市におけるコミュニティ・パワー普及に向けて」特定非営利活動法人グリーンエネルギー青森「省エネ・再生可能エネルギー推進のためのセミナー」2017 年 3 月 27 日, 青森市.
2. 「その“決め方”でいいですか? ～新社会人となる皆さんへ」三沢市選挙管理委員会「三沢市明るい選挙出前講座」2017 年 3 月 23 日, 三沢市.
3. 「なぜ住宅の省エネか? ～環境・家計・地域の視点から～」特定非営利活動法人グリーンエネルギー青森「市民講座：明るく・暖かく・楽しい省エネ住宅づくり」2017 年 3 月 3 日, 青森市.
4. パネルディスカッション「高校生の主権者教育の充実について」コーディネーター, 青森県教育委員会・青森県高等学校 PTA 連合会「平成 28 年度あおもり教育フォーラム・青森県高 P 連健全育成研修会」2016 年 11 月 2 日, 青森市.
5. ワークショップ「『答えのない問題』の答え方～災害対処ゲーム・クロスロードを体験しよう～」青森中央高等学校大学見学会 (1 年生対象), 2016 年 10 月 20 日, 青森大学.
6. 「18 歳選挙権と学校教育」青森県立青森中央高等学校教員研修会, 2016 年 6 月 29 日, 青森市.
7. 「18 歳選挙権と政治参加について」青森山田高等学校 3 年生向け講話, 2016 年 6 月 16 日, 青森市.

8. 「その“決め方”でいいですか? ~話し合いから政治参加まで~」平川市選挙管理委員会・平川市明るい選挙推進協会「平川市明るい選挙出前講座」2016年5月29日, 青森県平川市.
9. 「コミュニティ再生とご近所のカ~『幸畑団地地区まちづくり協議会』の活動から~」弘前市社会福祉協議会「平成27年度社会福祉協議会研修会」2016年2月26日, 青森県弘前市.
10. 「コミュニティ・パワーの実現に向けて~青森市への3つの提案~」特定非営利活動法人ういむい未来の里CSO「月曜会」2016年2月15日, 青森市.
11. 「コミュニティ・パワー普及のための政策提言 ~青森市での実現に向けた3つの提案~」特定非営利活動法人グリーンエネルギー青森「コミュニティパワー普及セミナー」2016年1月25日, 青森市.
12. 「18歳選挙権と学校教育」青森山田高等学校教員研修会, 2015年12月22日.
13. パネルトーク「わたしがコトをおこしたとき・創造編」コーディネーター, 青森県総合社会教育センター「パワフル Aomori 創造塾」2015年12月12日, 青森市.
14. 「グリーンエネルギー青森と市民風車わんずについて」環境省「地域主導型再生可能エネルギー事業の普及促進に係る研修会」2015年12月10日, 東京.
15. 「ボランティア・NPO の力でまちを变える!~『幸畑団地地区まちづくり協議会』の活動から~」青森県ボランティア連絡協議会「青森県ボランティアフェスティバル」2015年12月7日, 青森市.
16. 「グリーンエネルギー青森と市民風車わんずについて」環境省「地域主導型再生可能エネルギー事業の普及促進に係る研修会」2015年12月4日, 盛岡市.
17. 「フクロウフォーラム~フクロウが『青森市の鳥』って知ってました?」コーディネーター, NPO 法人ういむい未来の里CSO, 2015年11月22日, 青森市.
18. 「地元資源を行かした地域活性化と課題解決~(その2) アイディアをかたちにする方法」東青教育事務所「市町村社会教育主事等専門研修・東青地区」2015年11月19日, 青森市.
19. 「第2回 空き家で語る、空き家フォーラム~他人事ではない、『空き家問題』~」コーディネーター, 幸畑団地地区まちづくり協議会, 2015年10月25日, 青森市.
20. ワークショップ「地元の『資源』を活かそう!」東青教育事務所「市町村社会教育主事等専門研修・東青地区」2015年11月19日, 青森市.
21. 「青森県の公共交通政策の現状と課題~地域生活を支える公共財の視点から」青森県交通運輸産業労働組合協議会「第21回青森県交通シンポジウム」, 2015年10月19日, 青森市.
22. 「地元資源を行かした地域活性化と課題解決~(その1) “無いものねだり”か

- ら“あるもの探し”へ」東青教育事務所「市町村社会教育主事等専門研修・東青地区」2015年10月13日, 青森市.
23. ワークショップ「地元の『資源』を見つけよう!」東青教育事務所「市町村社会教育主事等専門研修・東青地区」2015年10月13日, 青森市.
 24. 「地域づくり・人づくりを担う社会教育の重要性～『幸畑団地地区まちづくり協議会』の活動から～」青森県総合社会教育センター「生涯学習・社会教育関係職員研修講座・第3回中堅職員研修」2015年9月8日, 青森市.
 25. ワークショップ「地域活動のお悩み相談室」青森県総合社会教育センター「生涯学習・社会教育関係職員研修講座・第3回中堅職員研修」2015年9月8日, 青森市.
 26. 「グリーンエネルギー青森と市民風車わんずについて」環境省「地域主導型再生可能エネルギー事業の普及促進に係る研修会」2015年9月4日, 仙台市.
 27. 「グリーンエネルギー青森と市民風車わんずについて」環境省「地域主導型再生可能エネルギー事業の普及促進に係る研修会」2015年8月25日, 名古屋市.
 28. パネルトーク「わたしがコトをおこしたとき・パワフル編」コーディネーター, 青森県総合社会教育センター「パワフル Aomori 創造塾」, 2015年5月23日, 青森市.
 29. 「『地域とともに生きる』青森大学この1年」青森大学・青森市・平内町「第2回 青森地域フォーラム～青森と平内のルネッサンス」, 2015年3月21日, 青森市.
 30. ワークショップ「みんなで考える! 地域活動のお悩み相談室」青森市「地域力向上セミナー」, 2015年2月21日, 青森市.
 31. パネルディスカッション「空き家の活用と適正管理について」コーディネーター, 青森県住みかえ支援協議会「空き家管理・活用フォーラム」, 2015年2月5日, 青森市.
 32. 「NPO でまちを変える～非営利活動入門～」青森大学オープンカレッジ, 2014年11月21日, 青森市.
 33. 「地域コミュニティの再生を目指して～『幸畑団地地区まちづくり協議会』の活動から～」青森大学公開講座・まちなかキャンパス, 2014年11月19日, 青森市.
 34. 「『話し合い活動』の拡大と深化～公開討論会の経験から～」五所川原市選挙管理委員会・五所川原市明るい選挙推進協議会「明るい選挙出前講座」(青森県明るい選挙推進協会・出前講座事業), 2014年7月29日, 五所川原市.
 35. ワークショップ「幸畑団地地区まちづくり協議会ワークショップ」幸畑団地地区まちづくり協議会, 2014年7月19日, 青森市.
 36. ワークショップ「話し合いを活性化させる技術～ファシリテーション入門～」

- (財)明るい選挙推進協会「地域コミュニティフォーラム (北海道・東北ブロック)」, 2014年7月16日, 山形市.
37. 『話し合い活動』の拡大と深化～公開討論会の経験から～」平川市明るい選挙推進協議会総会 (青森県明るい選挙推進協会・出前講座事業), 2014年5月29日, 平川市.
 38. 「2014年度弘前市市長選挙公開討論会」コーディネーター, 弘前青年会議所, 2014年4月2日, 弘前市.
 39. 「参加と協働を通じた地域づくり～NPOに学ぶ活動活性化のヒント～」市町村明るい選挙推進協議会「組織・活動活性化研修会」2014年2月24日, 弘前市.
 40. ワークショップ「“あったかいお金”を交換しよう～エコマネー・ワークショップ～」五所川原小学校学校支援ボランティア講演会, 2013年10月24日, 五所川原市.
 41. ワークショップ「議論の仕方を議論しよう」(財)明るい選挙推進協会「若者リーダーフォーラム (北海道・東北ブロック)」2013年10月19日, 山形市.
 42. 「参加と協働を通じた地域づくり～NPOに学ぶ活動活性化のヒント～」三戸郡選挙管理委員会連合会 合同研修会, 2013年10月10日, 平川市.
 43. 「市民風車“わんず”10周年記念フォーラム」パネリスト, NPO法人グリーンエネルギー青森, 2013年10月5日, 青森市.
 44. パネルディスカッション「バスで出かけてみませんか!～予約制バス“スネカラバス”のいままでとこれから～」コーディネーター, 大鰐町エコと交通検討会「おおわにエコと交通町民フォーラム2013」2013年3月9日, 大鰐町.
 45. 「参加と協働を通じた地域づくり～NPOに学ぶ活動活性化のヒント～」青森県選挙管理委員会「平成24年度市町村明るい選挙推進協議会組織・活動活性化研修会 (第1ブロック)」2013年3月5日, 青森市.

[学内各種委員]

- (全学) 研究推進・研究ブランディング会議、教務委員会、総合研究所 (地域問題研究班長)
- (社会学部) 教務委員会 (副委員長)、倫理審査委員会

[学外各種委員・役員等]

(在任中のもの)

1. 青森県生涯学習審議会 (第13期) 委員長
2. 鹿角市新エネルギー利活用促進協議会 委員長
3. 青森市地球温暖化対策地域協議会 委員
4. 大鰐町地域公共交通会議 委員
5. 青森県明るい選挙推進協議会 委員

6. 「青森交通圏タクシー事業適正化・活性化協議会」「弘前交通圏タクシー事業適正化・活性化協議会」「八戸交通圏タクシー事業適正化・活性化協議会」会長
7. 特定非営利活動法人グリーンエネルギー青森 副理事長
8. 特定非営利活動法人 アニマルサポート青森 監事
9. 北東北小水力利用推進協議会 理事
10. 七和地区活性化協議会「薪循環プロジェクト」協働委員

(2016年度に任期の終了したもの)

1. 青森県生涯学習課「平成 28 年度生涯学習・社会教育総合調査研究事業」研究顧問
2. 青森県エネルギー開発振興課「あおもり型スマートコミュニティモデルプラン検討ワーキンググループ」委員
3. 幸畑団地地区まちづくり協議会 運営委員

氏名 久慈 きみ代 (K U J I K i m i y o)

所属 社会学部社会学科

職名 教授

生年月日 1948 年 5 月 13 日

[履歴]

[学歴]

1971 年 3 月 駒澤大学文学部国文学科卒業

1996 年 3 月 弘前大学大学院人文科学研究科地域文化論専攻修士課程修了

[学位]

文学修士

[職歴]

1996 年 4 月 青森大学非常勤講師

1997 年 4 月 青森短期大学商経科専任講師

2002 年 4 月 青森短期大学地域創造学科助教授

2006 年 4 月 青森大学社会学部准教授

2009 年 4 月 青森大学社会学部社会学科教授 (現在に至る)

[所属学会]

中古文学会、日本文学協会、弘前大学国語国文学会、国際寺山修司学会 (地区運営委員)

[教育活動]

[担当科目]

文学、基礎演習、基礎スタンダード科目「人間と文化」、学問のすすめ (一部分担)、
地域貢献演習、言説分析□・□、児童サービス論、社会学演習□・□

【ゼミ担当】

2012年 3年ゼミ 13名

2013年 3年ゼミ 9名

2014年 2年ゼミ 18名

2015年 2年ゼミ 7名

2016年 2年ゼミ 8名

[教育指導に関する特記事項] (過去5年間)

1, 新しいスタイルの朗読詩劇を企画し公演。

学外の詩人、舞踏家の協力を得て、学内サークルの演劇集団「健康」(部長萱森由介氏)や
文芸部「幸畑文学」の学生たちと活動。主な活動を以下に記す。

①①三沢市寺山修司記念館のイベントに参加(「五月の修司忌」・演劇フェスティバル等)

②②講演と朗読詩劇を組み合わせた「誰にでもわかる寺山修司」(つがる市 稲垣いこいの里
物産館ギャラリー)

③寺山修司演劇祭2013第1回 から参加(星野リゾート青森屋)。

④青森大学主催「寺山修司忌」に参加。

2, 社会学部 学術研究会 学生研究発表会の担当者として、卒論発表大会、及び社会学科の卒業生 鈴木綾氏（特定非営利活動法人ビーンズふくしま副理事長）を講師に招き、ワークショップ等を含む、研究発表大会等を実施。

3, 担任学生やゼミ学生の教育相談を兼ねた個人面談を行う。

4, 部活動指導 青森大学演劇団「健康」と文芸部「幸畑文学」

[研究活動]

[研究テーマ]

地域に密着した研究や文化活動で、地域貢献を目指す。

(1) 中古文学研究（源氏物語、女流日記文学、地域の源氏物語「高照神社源氏物語之詞」）

(2) 寺山修司及び太宰治研究（主に寺山修司の青森時代の未開拓資料の発掘）

[著書、論文、総説]（過去5年間）

1, 『源氏物語』「いまめかし」考 その一青森大学・青森短期大学学術研究会『研究紀要』（第34巻一第2号）2011年11月

2, 「寺山修司 空白の半年—古間木中学校から青森野脇中学校への転校はいつか?—」『寺山修司研究5』文化書房博文社。（2012年3月）

3, 『東北近代文学辞典』（勉誠社 2012年8月）、「寺山修司」「福井緑」「渡辺金次郎」の部を担当。

4, 「少年編集者寺山修司」『帰ってきた寺山修司展、図録』（世田谷文学館 2013年2月）

5, 「少年ジャーナリスト、始動」『別冊太陽 寺山修司』（平凡社 2013年5月）

6, 「白鳥発見の意義」『特別展寺山修司没後30年 図録』（青森県近代文学館 2013年7月13日～9月8日）

7, 『編集少年寺山修司』（論創社 2014年8月20日刊）単著

8, 『寺山修司未発表詩集 秋たちぬ』（岩波書店・2014年11月13日刊）解説注記、担当。

9, 高照神社所蔵『源氏物語之詞』の基礎調査（1）（『研究紀要』第37巻第1号青森大学学術研究会 2014・7月1日）

10, 高照神社所蔵『源氏物語之詞』の基礎調査（2）翻刻編1（『研究紀要』第37巻第2号青森大学学術研究会 2014年11月1日）

11, 高照神社所蔵『源氏物語之詞』の基礎調査（3）翻刻編2（『研究紀要』第37巻第3号青森大学学術研究会 2015年2月1日）

12, 「あの日から僕のパッパは帰ってこなかつた」—寺山修司 父恋い年譜—『寺山修司研究8』（文化書房博文社 2015年4月）

12, 「駅を出ると文豪の街—太宰治『思ひ出』の足跡検証—（久慈ゼミ刊 2015年10月）

13, 「寺山修司「私への遡行—原風景を探る」『北奥氣圏11号』（書肆北奥舎 2015年12月）

14, 「駅を出ると文豪の街Ⅱ—寺山修司の風景」—（久慈きみ代刊 2017年3月）

[学会発表] (過去5年間)

- 1, 「寺山修司空白の半年についてー古間木中から野脇中への転校はいつかー」 国際寺山修司学会秋季大会 愛知学院大学 2011年10月29日

[研究費の取得状況]

- 1, 公益財団法人青森学術文化振興財団助成「地域の学術成果等に関する普及のための出版事業」(寺山修司青森時代) 2008年度
- 2, 第1回青森大学教育研究プロジェクト「地域文化貢献:津軽家・高照神社所蔵(弘前市高岡)「源氏物語之詞」の資料的価値の考察と公開(書籍作成)に向けての準備」(2014年度)
- 3, 公益財団法人青森学術文化振興財団助成「太宰治・寺山修司の青森市・青森県における足跡調査及びその健康資源化を考慮し、青森県(市)の地域振興を目指す事業」(2016年度)

[その他の活動] (過去5年間)

[公開講座・講演・セミナー]

- 1, 青森大学オープンカレッジ市民講座講師 演題「源氏物語の時代背景」 於:青森大学6号館 2012年10月19日(金)
- 2, 平成24年度寺山修司市民大学教養学科 第3回講師 演題「孤独な少年ジャーナリスト寺山修司」 於:寺山修司記念館 2012年11月3日(土)
- 3, 上北歴史文化研究会主催講演 演題「寺山修司の少年時代」 於:おいらせ町 向山カワヨグリーンロッジ 2013年1月27日(日)
- 4, 青森県近代文学館 文学講座2 演題「寺山修司のことばー内部から成長をはじめるときが来たー」 2013年8月18日(日)
- 5, 平成25年度寺山修司市民大学 最終合同講座 於:三沢市公会堂(第8集会室)
鼎談「寺山修司を語る」(九條今日子、佐々木英明、久慈きみ代) 2014年2月1日(土)
- 6, 青森商工会議所女性会講演会 講師 演題「あおもり発 クールジャパン「源氏物語之詞(高照神社所蔵)・寺山修司・青森ひば」 於:国際ホテル 2014年2月27日(木)
- 7, 「第1回青森地域フォーラム」、「青森の今と未来を考える」に「寺山修司と青森」で参加 於:リンクステーションホール大会議室 2014年3月8日(土)
- 8, 平成26年度寺山修司市民大学 総合講座講師 於:三沢市寺山修司記念館
演題「編集少年 寺山修司」ー寺山少年の光と闇ー 2014年11月22日(土)
- 9, 「探ろう!太宰治中学期」講師 於:青森市「湊海」 2014年12月6日(土)
- 10, 平成26年度寺山修司市民大学総合講座 最終回に講師参加 於:三沢市商工会館 2015年2月21日(土)

- 11, 五戸町民大学講座講師 五戸町立公民館 於 1階小ホール
演題「寺山修司の世界—今、なぜ 寺山修司は大人気か—2015・10月26日

(特別企画・実施)

- 1, 「布えほん合同展示 あおもりさわる絵本&よこはま布えほんぐるーぷ30周年記念青森展示」企画実施 於：青森市民図書館7階・8階・つどいの広場「さんぼぼ」(アウガ6階) 来場者数二千数百名 2011年10月8日～10日
- 2, あおもり古典を楽しむ会発足記念講演の企画実施 リンクステーションホール(青森市文化会館) 4階大会議室 2011年9月6日(火)
講師 東京大学名誉教授鈴木日出男先生 演題『源氏物語』の光と影—光源氏と六条御息所— 参加者約130名参加。
- 3, あおもり古典を楽しむ会第2回特別講演(主催青森古典を楽しむ会&青森大学オープンカレッジ)の企画実施 リンクステーションホール 4階大会議室
講師 東京大学名誉教授 鈴木日出男先生 演題「夕顔の物語—源氏物語の女君—」 参加者約120名。2012年10月21日(日)
- 4, あおもり古典を楽しむ会第3回特別講演(主催青森古典を楽しむ会・協力青森大学)企画実施 リンクステーションホール 4階中会議室
講師 駒澤大学名誉教授 高橋文二先生 演題鈴虫の巻—『源氏物語』の風景 参加者満席75名 2014年10月18日(土)
- 5, 無形文化財「津軽箏曲郁田流」のしらべ(リンクステーションホール)企画・実施 2015・10月20日(火)
- 6, 名古屋徳川美術館国宝「源氏物語絵巻」鑑賞随時講師。2015・11月17日・18日
- 7, 青森市 生誕80周年寺山修司・澤田教一展実行委員会会議(委員) 2015年4月～12月(事業終了時まで) 三沢演劇祭7月 奴婢訓7月12日初演公開ワークショップより「奴婢一般に関する総則」(青森公立大学交流ホール)等。

[報告書・書評・寄稿など](過去5年間)

- 1, 「辺境」を越えた発信—「北奥気圏」第7号を読む『陸奥新報』2011・8・21(日)
- 2, 「没後30年寺山修司を探して⑥」編集少年の才能 デーリー—東北：2013年7月11日(木)
- 3, 印象記 弘前大学国語国文学研究会シンポジウム「寺山修司の可能性をめぐって」(弘前大学国語国文学第36号平成27年3月)

[講演・出演](過去5年間)

- 1, NHKラジオ深夜便 「寺山修司が残したもの」 2013年9月28日(土)
- 2, 出演 BS朝日 昭和偉人伝「寺山修司」2013年・10月23日(水)
- 3, 出演 NHKテレビ(青森あつぷるワイド、東北版、後全国放送)「今こそ！寺山修司」

2013 年 11 月 11 日

- 4, 青森大学オープンカレッジ「源氏物語を読む」講師 (1998 年～2013 年)
- 5, NHK文化センター青森「じっくり読みたい源氏物語」講師 2004 年～現在に至る
- 6, あおもり古典を楽しむ会『紫式部日記』読む 講師 2011 年 4 月～継続

[学内各種委員] (過去 5 年間)

図書委員会、学術研究会、資格審査委員会 (社会学部)

[学外各種委員] (過去 5 年間)

国際寺山修司学会東北地区運営委員

あおもり古典を楽しむ会 特別顧問

氏名 櫛引 素夫 (KUSHIBIKI Motoo)

所属 社会学部社会学科

職種 教授

生年月日 1962年12月19日

[履 歴]

[学 歴]

1985年3月 東北大学理学部地理学科卒業

1987年3月 東北大学大学院理学研究科（地学専攻）博士前期課程修了

2006年3月 弘前大学大学院地域社会研究科（後期3年博士課程）修了

[学 位]

理学修士

博士（学術）

※専門地域調査士（日本地理学会）

[職 歴]

1986年4月 東北学院榴ヶ岡高校非常勤講師（1987年3月まで）

1987年4月 株式会社東奥日報社（2013年3月まで）

[受 賞]

特記事項なし

[所属学会]

日本地理学会、東北地理学会、経済地理学会、日本都市学会、日本地域政策学会、
日本マス・コミュニケーション学会

[教育活動]

[担当科目]

キャリア特別実習Ⅰ・Ⅱ、メディア論Ⅰ・Ⅱ、地域社会学Ⅱ、社会学演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・
Ⅵ、社会学概論Ⅰ（オムニバス）

[卒業研究指導]

2017年度：社会学演習Ⅴ・Ⅵ（12人）

2016年度：社会学演習Ⅴ・Ⅵ（12人）

2015年度：社会学演習Ⅴ・Ⅵ（11人）

[ゼミ指導]

2017年度：社会学演習Ⅲ・Ⅴ（6人）

2016年度：社会学演習Ⅲ・Ⅳ（11人）

2014年度：社会学演習Ⅱ（16人）

社会学演習Ⅲ（15人）

※社会学演習Ⅳ（26人＝菅ゼミ）サポート

2013年度：基礎演習A（15人）

社会学演習Ⅱ（17人）

社会学演習Ⅲ（11人）

社会学演習Ⅳ（9人）＝幸畑プロジェクト・サポート

[教育指導に関する特記事項]

専門地域調査士（日本地理学会認定）や防災士（日本防災士機構認定）の視点を生かし、学修と地域貢献・社会貢献活動、さらに就職活動を一体化させた指導をイメージして、一つの能力や経験の獲得が、他の領域へ連鎖的に発展・展開していくことを実感させる授業・指導を目指している。各授業において、ソーシャルメディアやマスメディア、ネットメディアを活用し、時事の話題を可能な限り採り入れながら、基礎的な知識と体系だった思考、リテラシー（読解力・表現力）の育成に努めている。

特に新聞については、学生が情報を得るだけでなく、自らを内省するツールとしても積極活用している。パワーポイントやオンラインのビデオ・コンテンツを積極的に採り入れ、また、各授業とも原則としてミニ・レポートを毎回提出させて、アクティブ・ラーニングの進展を図るとともに、卒業生や先輩学生、外部スピーカーを直接、またはオンラインで招き、「社会の中の大学」を実感させる仕組みづくりに取り組んでいる。

大学の使命となっている教育・研究・社会貢献活動が融合した授業の実現を目指し、充実した学修や研究活動が、就職活動、ひいては社会人としての活動の充実につながる事実を、多面的に学生に伝えることを心がけている。

[研究活動]

[研究テーマ]

○地理学分野（整備新幹線の政治的・経済的・社会的諸課題、空き家問題の現状把握と対策、人口減少・過疎問題、道の駅振興など）

○幸畑プロジェクト（青森市・幸畑団地の地域社会研究ならびに地域貢献活動）

○地域防災力の向上

○メディア論（特に新聞）

[著書、論文、総説]

1. 櫛引素夫：「地域振興と整備新幹線－『はやて』の軌跡と課題」、136p、弘前大学出版会、2007
2. 弘前大学震災研究交流会編：「東日本大震災 弘前大学からの展望 2011-2012

- －それぞれの3. 11－、弘前大学出版会、2013（執筆分担）
3. 櫛引素夫、北原啓司：「東北新幹線八戸開業が地元にもたらした経済的、社会的変化と課題」、弘前大学大学院地域社会研究科年報、p76-95、2005
 4. 戸所隆ほか16名：「実務地理関係者の活動実態とその社会貢献の在り方に関する調査研究」（平成21年度財団法人国土地理協会研究助成事業、2010）
 5. 社団法人日本地理学会企画専門委員会：「実務地理関係者の活動実態とその社会貢献の在り方に関する調査研究」（E-journal GEO Vol. 6, No. 1 P38-71, 2011（執筆分担）
 6. 櫛引素夫：「北海道新幹線開業への課題－道南地域と青森県を中心に」、青森大学研究紀要、36(2)、pp33-52、2013. 11
 7. 櫛引素夫：「北陸新幹線開業をめぐる地域課題－上越、富山、金沢地域の比較」青森大学研究紀要、36(3)、p219-238、2014. 2
 8. 櫛引素夫：「『新幹線効果』を考える－八戸・弘前・青森」、地域社会研究／弘前大学地域社会研究会編；弘前大学大学院地域社会研究科監修、(7)、p135-145、2014. 3
 9. 櫛引素夫：「幸畑団地における居住動向の変化と地域課題」、青森大学付属総合研究所紀要、15(1)、p11-24（菅勝彦ほか9名との共著）、2014. 3
 10. 櫛引素夫：「青森市の観光ボランティアにみる東北新幹線開業への評価」青森大学付属総合研究所紀要、16(1)、p14-22、2014. 9
 11. 櫛引素夫：「整備新幹線が地域にもたらす変化の検討－『存在効果』を中心に」、地域社会研究、弘前大学地域社会研究会編；弘前大学大学院地域社会研究科監修、(8)、p136-145、2015. 3
 12. 櫛引素夫「北陸新幹線開業が北信越地域にもたらす変化と地域課題」、青森大学付属総合研究所紀要、16(2)、pp. 25-35
 13. 小久保温、櫛引素夫ほか「エコマネーWebプラットフォームのドメイン・モデルの設計」、青森大学付属総合研究所紀要、第17巻1号、pp. 23-31
 14. 櫛引素夫「北信越地域における北陸新幹線開業直後の変化と課題」、青森大学付属総合研究所紀要、第17巻1号、pp. 32-44
 15. 石橋修、櫛引素夫ほか「郊外型住宅団地の課題と電子エコマネーの可能性－青森市・幸畑団地の事例－」、八戸学院大学紀要第51号、pp. 1-11
 16. 櫛引素夫「北海道新幹線開業をどうみるか 『整備新幹線論』構築への論点整理の試み」、地域社会研究、弘前大学地域社会研究会／弘前大学大学院地域社会研究科監修、(9)、2016.3、pp.93-104
 17. 櫛引素夫（共著、由井義通・久保倫子・西山弘泰編）、「都市の空き家問題なぜ？ どうする？ 地域に即した問題解決にむけて」古今書院、2016.3、212p.
 18. 櫛引素夫「コンパクトシティ政策と郊外の空き家問題－青森市の事例からの論点

- 整理)、青森大学附属総合研究所紀要、第 17 巻 2 号、2016.3
19. 櫛引素夫「北信越地域における北陸新幹線開業 1 年後の変化と課題」、青森大学附属総合研究所紀要、第 18 巻第 1 号
20. 櫛引素夫「整備新幹線をめぐる沿線の『自己評価』について—新しい独自の指標づくりは可能か—」、地域社会研究、弘前大学地域社会研究会／弘前大学大学院地域社会研究科監修、(10)、2017.3、pp.69-76

[学会発表]

1. 「東北新幹線八戸駅開業に向けての地元の諸課題」(東北地理学会 2002 年秋季学術大会、2002.10.12)
2. 「東北新幹線八戸駅開業に伴う変化(速報)」(東北地理学会 2003 年春季学術大会、2003.5.18)
3. 「東北新幹線八戸駅開業が地域に及ぼした効果・影響」(経済地理学会北東支部 2003 年 11 月例会、2003.11.29)
4. 「東北新幹線八戸開業が住民にもたらした変化と課題」(日本都市学会第 51 回大会、2004.10.16、北原啓司と連名)
5. 「東北新幹線・新青森開業に向けての地域の諸課題」(東北地理学会 2008 年春季学術大会、2008.5.18)
6. 「東北新幹線・新青森開業への対応と課題—八戸開業との対比から—」(東北地理学会 2009 年秋季学術大会、2009.10.3)
7. 「東日本大震災とメディア・ビジネスモデル—東北の地方紙を中心に—」(東北地理学会 2011 年春季学術大会、2011.5.15)
8. 「東日本大震災へのメディアの対応—東北の地方紙を中心に—」(東北地理学会 2011 年秋季学術大会、2011.10.9)
9. 「青森県の準限界集落にみる他出者の動きと内面」(青森大学地域貢献センター・国立民族学博物館共同研究会「人の移動と地域を考える」、2013.6.15)
10. 「災害と報道の狭間—地域防災力強化への視点—」(弘前大学震災研究交流会、2013.12.10)
11. 「郊外型住宅団地における人口の変化と空き家の状況—青森市幸畑団地の事例から—」東北地理学会春季学術大会 (2014.5.18)
12. 「整備新幹線開業をめぐる空間的・時間的課題—北陸・北海道新幹線を中心に—」、東北地理学会春季学術大会 (2014.5.18)
13. 「整備新幹線の開業に関する地理学的視点からの論点整理—東北・北海道新幹線の事例から—」、日本地理学会秋季学術大会 (2014.9.20)
14. 「新聞産業の現状とジャーナリズムの行方」、日本マス・コミュニケーション学会秋季研究発表会ワークショップ (2014.11.8=藤森研と連名)

15. 「道南開業の特徴と課題：九州・北陸・東北との比較から」 経済地理学会北東支部 11 月例会 (2014.11.15)
16. 「青森県の住民意識にみる東北新幹線の開業効果—青森, 弘前, 八戸市の調査から」、日本地理学会春季学術大会 (2015.3.28)
17. 「北陸新幹線開業に関する地理学的な課題の検討」、東北地理学会春季学術大会 (2015.5.17)
18. 「郊外型住宅団地の地域課題とコミュニティ再生・活性化—青森市・幸畑団地の事例」、東北地理学会春季学術大会 (2015.5.16=石橋 修・柏谷 至・佐々木 てる・田中 志子・小久保 温・坂井 雄介と連名)
19. 「青森県の 3 市にみるまちづくりと大学の連携」、日本地理学会・秋季学術大会 シンポジウム「地方創生に向けたまちづくりに対する大学の役割」報告、2015.9.19
20. 「北海道新幹線開業に対する青森県内の意識と課題—青森, 弘前, 八戸市の調査から—」、日本地理学会秋季学術大会、2015.9.18
21. 「青森市幸畑団地における借り上げ空き家の活用事例と課題 (第 1 報)」、東北地理学会・秋季学術大会、2015.10.17
22. 「北陸新幹線開業直後における北信越地域の変化 (速報)」、東北地理学会・秋季学術大会、2015.10.17
23. 「北陸新幹線をめぐる議論・視点の普遍性と個別性」、日本都市学会・第 62 回大会シンポジウム報告、2015.10.31
24. 「遠隔地の自治体等に対する地域貢献活動の課題抽出ならびに改善案の検討」、平成 27 年度・青森大学教育研究プロジェクト中間報告会、2015.12.19
25. 「北海道新幹線開業の特徴と課題—九州・北陸・東北との比較から」、経済地理学会北東支部・日本計画行政学会北海道支部・日本計画行政学会東北支部合同公開シンポジウム「北海道新幹線開業と北東日本の地域的展望・課題」、2016.2.13
26. 「東北・北海道新幹線の行方」、青森大学・青森地域フォーラム、2016.2.20
27. 「東北・北海道新幹線の行方」、青森大学・社会学部教員研究報告、2016.2.23
28. 「遠隔地の自治体等に対する地域貢献活動の課題抽出ならびに改善案の検討」、青森大学教育研究プロジェクト最終報告会、2016.3.17
29. 「都市郊外への新幹線駅立地がもたらす地域課題—東北・北陸・北海道新幹線の事例から」、日本地理学会春季学術大会、2016.3.21
30. 「青森市におけるコンパクトシティ政策と郊外団地の関係性—幸畑団地の現状」、東北地理学会春季学術大会、2016.5.14
31. 「東日本大震災とメディア」、第 1 回青森大学附属総合研究所研究会、2016.6.17、青森市・フリーカフェしんまち
32. 「人口減少下の移住促進をめぐる地域課題の論点整理—青森県内のメディアの視

- 点からー」、第 63 回東北社会学会、2016. 7. 31
33. 「北陸新幹線開業後の地域変化ー長野・上越・高岡の現状と課題ー」、日本地理学会・東北地理学会秋季学術大会、2016 年 9 月 30 日、東北大学
 34. 「地域政策形成へのステップーメディア・留学生を中心にー」、科学研究費・基盤研究 (C)・成果報告研究会「人口減少社会と外国人・移民政策 ～青森県を事例として～」、2016 年 11 月 11 日、青森大学
 35. 「地域貢献活動と連携した授業展開の実践試行ならびに学生への効果の検証」、青森大学研究プロジェクト・中間報告会、2016 年 12 月 22 日、青森大学 (沼田郷、坂井裕介と連名)
 36. 「公開フォーラム・北海道新幹線は青函圏をどう変えるのか」開催 (青森学術文化振興財団・平成 28 年度助成事業、青森大学附属総合研究所と共催、2017 年 1 月 28 日、新町キューブ)
 37. 「地域貢献活動と連携した授業展開の実践試行ならびに学生への効果の検証」、青森大学研究プロジェクト・最終報告会、2017 年 3 月 17 日、青森大学 (沼田郷、坂井裕介と連名)
 38. 「青森市・幸畑団地における転入者の実態調査試行ー住民との協働に基づく大学の教育・地域貢献活動」、日本地理学会春季学術大会、2017 年 3 月 28 日、筑波大学
 39. 「空き家管理事業の展開とその可能性」、日本地理学会春季学術大会、2017 年 3 月 28 日、筑波大学 (西山弘泰＝口頭発表者＝、由井義通、若林芳樹と連名)
 40. 「教育・研究と地域貢献活動の融合ー『道の駅』、JR 東日本との連携から」、日本地理学会春季学術大会、2017 年 3 月 28 日、筑波大学 (地域連携活動研究グループ発表)

[その他の著作物]

1. フォーラム「不透明な東北新幹線八戸延伸の効果」、季刊地理学、54(2)、p117-120、東北地理学会、2002
2. フォーラム「地理と学校と新聞ーNIE の持つ可能性」、季刊地理学、54(4)、p251-254、東北地理学会、2002
3. 『『あらざる、等しからざるを憂えず』ー巨大開発が青森県にもたしたもの』、地域政策 2005 年・夏季号、三重県、2005)
4. 「九州新幹線開業前夜--新幹線開業がもたらしたもの」(7 回連載)、九州経済調査月報/九州経済調査協会編、63~69、2010~2011)
5. 「新青森開業の準備はなぜ『進まない』かー東北新幹線の政策的な課題と可能性」、地域社会研究/弘前大学地域社会研究会編;弘前大学大学院地域社会研究科監修、(3)、p27-37、2010

6. 「震災とメディア：東北の地方紙を中心に」、地域社会研究／弘前大学地域社会研究会編;弘前大学大学院地域社会研究科監修、(5)、p55-64、2012
7. フォーラム「東日本大震災以降の地理学とマス・メディアの関係性の課題」季刊地理学、64(1)、p12-15、東北地理学会、2012
8. 「試される地域経営力：「全国最長の並行在来線・青い森鉄道」(特集 並行在来線と暮らし)、月刊地理、57(10)、p68-75、古今書院、2012
9. 「整備新幹線の『開業効果』をどうみるかー青森県の事例から (特集 新幹線延伸により変わる地域)、NETT、No.78、p10-13、ほくとう総研、2012
10. 「北陸新幹線開業に思う」、2014年1月15日付北日本新聞朝刊寄稿
11. 「北海道新幹線開業に向けた連携態勢の整理と今後の課題ー北陸新幹線の開業準備事例などから」、平成25年度青森県商工会議所連合会補助事業「商工業に関する調査・研究事業」、p28、2014.3
12. 「東北新幹線の歴史から」、2014年7月29日～31日付・函館新聞朝刊寄稿(3回続き)
13. 「社会に向き合う覚悟をーメディア活用の重要性」、月刊地理、60(1)、p32-35
14. 「青森市・幸畑団地の取り組みー連載・空き家が増える都市と郊外 なぜ? どうする? 第6回」、月刊地理、60(3)、p72-78
15. 「東北新幹線の開業が地元の生活に及ぼした影響の検証ならびに北海道新幹線の開業準備の検討と提言」、平成26年度青森学術文化財団助成事業・成果報告書、p48、2015.3
16. 「北陸新幹線の開業が東北地方の交通に及ぼす広域的变化の基礎調査」、平成26年度ほくとう総研地域活性化連携支援事業・成果報告書、p21、2015.3
17. 「北陸新幹線の開業が東北地方の交通に及ぼす広域的变化の基礎調査〜『2014年問題』が提示する諸課題」、NETT、No.88、pp.48-52、ほくとう総研、2015.4
18. 「『ちょうどよさ』取り戻せる社会ー『めざす社会って』どんなイメージって聞かれたら」、社会科教育、673(2015年5月号)、p5、明治図書、
20. 「開業まであと4カ月 北海道新幹線の苦悩」、週刊東洋経済(6630)、2015.11.28、pp.62-64
21. 「『かがやき』のありかー北陸新幹線・開業1年」(北日本新聞、上・中・下、2016年3月12日、19日、26日)
22. 「北海道新幹線 赤字予想で険しい船出 国土的位置づけ再考を」、エコノミスト、94(11)、p.99、2016年3月15日号
23. 「北海道新幹線開業に伴う青森地域の変化の検証準備と提言」、平成27年度青森学術文化振興財団助成事業成果報告書、p48、2016.3
24. 「新幹線は国土をどう変えるのか」、週刊東洋経済・臨時増刊「鉄道全真相2016」、p.18-21、2016年5月4日号

25. 「『地図に残る仕事』の意義と重さ」、地図情報、137号、地図情報センター、p.23-25、2016.4
26. 「国土政策と地域振興策から見た東北・北海道新幹線の意義」、新幹線ほくとう連携研究会報告書、pp.6-26、2016.4
27. 「九州新幹線の特徴 他地域との比較から」、KER 経済情報、No.315、九州経済研究所、p.6-10、2016.6
28. 「大都市部 与党への異論鮮明」2016年参院選寄稿、2016年7月14日付朝日新聞あおもり県版
29. 「新幹線・第3の開業（上）」、青森総合卸センターニュース、第552号（3）、2016.7
30. 「新幹線・第3の開業（下）」、青森総合卸センターニュース、第553号（3）、2016.8
31. 「道南・青森県圏の『これまで』と『これから』」、月刊地理、62（3）、pp.2-9、2017.2
32. NPO 法人ひろだいりサーチ、青森大学社会学部・櫛引研究室「地域社会・企業を通じて考える青森県内で『働く・生きる』ことのポテンシャル研究」事業実施報告書、p58、2017.2
33. 「地域政策形成へのステップ－メディア・留学生を中心に－」、JSPS 科研費・基盤研究（C）成果報告書「人口減少社会と外国人・移民政策 ～青森県を事例として～」(佐々木てる研究代表)、pp.71-95、2017.3
34. 「北海道新幹線開業に伴う青函地域と住民の意識変化と提言」、平成28年度青森学術文化振興財団助成事業成果報告書、p48、2017.3
35. 「新幹線の来し方と行方」、地域調査士通信第5号「地域調査の現場」第5回、pp.3-4、日本地理学会、2017.4

◇東洋経済オンライン (<http://toyokeizai.net/>) 連載「新幹線は街をどう変えたか」

36. 「観光業の活性化だけでは残念すぎる／東北新幹線の延伸で沿線都市が得た『果実』」、2015年7月9日
37. 「『金沢独り勝ち』をどう克服するか／北陸新幹線を喜べない富山県民の複雑な思い」、2015年8月6日
38. 「『第2の開業』がもたらした市民の変心／新幹線「途中駅」になった長野が栄える理由」、2015年8月24日
39. 「開業で新潟県分裂の危機も？／北陸新幹線開業で露呈した上越の『悩み』」、2015年9月15日
40. 「連携構築しづらい『大きな1人っ子』／北陸新幹線開業で浮き彫りになる新潟の苦悩」、2015年10月9日

41. 「異彩を放つ長野北端『ブナの駅』飯山／北陸新幹線『かがやき』が通過する駅の模索」2015年12月2日
42. 「北海道新幹線、運賃や本数…逆風下の開業！／遠すぎる終着駅、『新函館北斗』が抱える課題」、2015年12月28日
43. 「『道民の悲願』達成も、将来像はまだ見えず／新幹線開業初日、『変わる北海道』の姿を見た」、2016年3月29日
44. 「人的連携が成否を握る『北海道新幹線』／函館と青森、新幹線効果は海峡を超えるか」、2016年1月5日
45. 「道南の『ハブ』を目指す北海道・木古内町／新幹線駅に生かす青函トンネルの『苦い教訓』」、2016年2月1日
46. 「本州最北端の新幹線駅がある青森・今別町／若者を惹きつける『日本一小さい新幹線の町』」、2016年3月21日
47. 「『道民の悲願』達成も、将来像はまだ見えず／新幹線開業初日、『変わる北海道』の姿を見た」、2016年3月29日
48. 「全線開業5周年の祝賀ムードが一転したが…／熊本地震で寸断した『九州新幹線』復旧の行方」、2016年4月25日
49. 「青函間は従来比で乗換や時間増大、料金高に／北海道新幹線、見えてきた地元・観光客の不満」、2016年4月26日
50. 「開業から5年、地震乗り越え経済効果は大／九州新幹線で『最も恩恵を受けた地域』は？」、2016年5月19日
51. 「行政・財界は熱望、しかし住民にはあきらめも／『四国新幹線』の建設は必要不可欠といえるか」、2016年6月29日
52. 「コンテナ店舗で挑む上越妙高駅前改革の勝算／北陸新幹線開業2年目、人口減へ新たな解？」、2016年08月25日
53. 「北海道新幹線、利用者倍増で意外な落とし穴／『嬉しい誤算』だが地元には課題も浮上」、2016年10月05日
54. 「開業2年目『北陸新幹線』、沿線駅の明と闇／駅前と市街地が競合する地域も」、2016年10月27日
55. 「新幹線ルートのカギを握る『費用対効果』／北陸新幹線敦賀以西は『小浜・京都』に」、2016年12月14日
56. 「『道の駅』来場55万人！新幹線で変わる木古内ー人口減少や高齢化が進む地域の可能性」、2017年2月7日
57. 「『新幹線は高い』青函間にフェリー復権の兆しー乗客増加、安さと速さで新幹線と棲み分けか」、2017年3月12日「北海道新幹線1年、道南に『東北化』の兆しーダイヤ改正で青森ー函館はさらに遠く」、2017年3月30日
58. 「北陸新幹線『東北とひと味違う』駅前の開拓術ー開業から2年「特需」が一段

落した信越の今」、2017年4月6日

◇その他

※毎日新聞、日本経済新聞、北海道新聞、新潟日報、河北新報、朝日新聞・北海道版、読売新聞・青森県版、週刊AERA、週刊SPA、青森放送、青森テレビなどに整備新幹線・人口減少問題などでインタビュー記事、コメント掲載・オンエア多数。

[その他の活動]

弘前大学大学院地域社会研究科客員研究員（2013年4月～）

経済地理学会評議員（2016年4月～）

東北地理学会評議員（2013年4月～2017年3月）

弘前大学非常勤講師（2017年4月1日～）

青森地方労働審議会委員（2013年9月～）

青森労働局労働関係紛争担当参与（2015年4月～）

青森県中山間地域対策協議会委員（2016年3月～）

J A F 青森支部交通安全実行委員長（2016年4月1日～）

青森市いじめ防止対策審議会会長（2015年6月～）

NPO 法人青森県防災士会理事（2012年4月～）

NPO 法人ひろだいりサーチ理事(2014年5月～)

「大学生観光まちづくりコンテスト」北日本ステージ・青森ステージ運営委員（2014年4月～）

幸畑団地地区まちづくり協議会運営委員（2014年7月～）

青森 KEN 民塾・世話人（2012年5月～）

放送大学非常勤講師（2014年度～2016年度）

青森地方最低賃金審議会委員（2015年4月～2017年3月）

人口減少社会対応型商店街構築事業・戦略策定委員会委員（2015年7月～2017年3月）

青森大学×平内町連携プロジェクト実行委員会・副実行委員長（2014年11月～）

こぎんフェス実行委員会委員（2013年2月～2017年3月）

新幹線ほくとう総研連携研究会会員（2014年10月～2015年10月）

青森県オープンデータ検討会委員（2014年4月～2016年3月）

青森県あおもり共助社会づくり推進事業協働プロジェクト認定審査会委員（2014年6月～2016年3月）

文部科学省大学設置審議会文学専門委員会委員（2010年4月～2013年3月）

新聞労連・産業政策研究会研究員

（2007年8月～2013年9月・座長＝2011年9月～2013年9月）

新聞労連・消費税問題対策チーム・コーディネーター

（2013年12月～2014年4月）

日本地理学会企画専門委員（2006年4月～2010年3月）

※FM 青森・「ラジオで徹底討論！青森県応援フォーラム『AOMORISM』」出演
（2014年2月11日）

※こぎんフェス実行委員会・「こぎんフェス 2014」特別記念シンポジウム・コーディネーター（2014年4月29日）

※NPO法人「プラットフォームあおもり」主催「あおもりこれからゼミ・青森大学編」参画（2014年12月11日、2月7日青森テレビでオンエア）

※平内町「ひらない魅力発掘晩餐会」企画・運営（2015年1月23日）

※青森市観光フォーラム「こころハネる青森」コーディネーター、2015年3月1日、青森市・青森国際ホテル

※青森市議会報告会「第1回議員とカダる会」浪岡会場ファシリテーター、2015年5月24日、青森市浪岡中央公民館

※青森市議会報告会「第2回議員とカダる会」浪岡会場ファシリテーター、2015年10月25日、青森市浪岡中央公民館

※弘前市オープンデータ・ワークショップ・ファシリテーター、2015年12月6日、弘前市・ヒロロ

※弘前市オープンデータ・ワークショップ Part2・ファシリテーター、2016年1月24日、弘前市・上土手コミュニティーパーク

※BS-TBS「Biz Street」北海道新幹線開業コメンテーター出演
（2016年3月26日）

※NHK・FM「歌で結ぶ北海道新幹線」コメンテーター出演（2016年4月29日）

※NPO法人クリエイト・2016年度成果発表会審議員、2017年3月12日、アウガ

※新潟県知事タウンミーティング「鉄道と連携した地域活性化」コーディネーター、2017年4月24日、上越市

[公開講座、講演、セミナー]

1. 経済地理学会北東支部 10月例会シンポジウム「改正まちづくり三法の施行と地方都市中心商店街の再生について」報告：「コンパクトシティの取り組みと背景－青森市を中心に」（2006年10月21日）
2. 福岡県主催・九州新幹線研修会講師「新幹線開業と地域振興－『2011年春』へ

- の視点ー」(2008年10月、久留米市)
- 3.日本地域政策学会シンポジウム「港・駅を活かしたコンパクトなまちづくり」
討論者：(2008年7月6日、名古屋市)
 - 4.国土交通省東北運輸局主催・鉄道シンポジウム・パネリスト提起「『2010年』へのハードルー東北新幹線・新青森駅開業ー」(2008年10月、青森市)
 - 5.コープあおもり研修会講演：「21世紀をどう生き抜くかー高齢化・人口減・新幹線開業・暮らしの知恵」、2008年11月21日、青森市)
 - 6.「新幹線開業をどう迎えるかー『東北』の事例から」(第3回「北海道新幹線地域活性化フォーラム」、2008年11月8日、函館市)
 - 7.新聞労連九州・沖縄地連春闘討論集会講演：「嵐にたつ新聞ーマルチメディア社会の中で」(2009年1月15日、福岡市)
 - 8.新聞労連九州・沖縄地連春闘学習会講演：「新聞が生き残っていくには」(2010年1月21日、大分市)
 - 9.「あおもり経済デザイン会議」提起・パネリスト「新幹線開業をどうとらえるかー青森・津軽の現状と課題」：(青森市、2010年2月19日、青森市)
 - 10.新聞労連東北地連春闘学習会講演「新聞が生き残っていくには」(2010年2月4-5日、福島市)
 - 11.青森中央学院大学・連続公開講座講義「新幹線開業をめぐる光と影ー東北新幹線全線開通ー」(2010年9月1日、同大)
 - 12.新聞労連・中四国地連春闘討論集会講演「『NIE』『読者ニーズ』の視点からー産政研2010年報告書を読む」(2011年1月14日、松山市)
 - 13.函館・新幹線開業対策塾講演「津軽からみた新青森開業ー整備新幹線と地域の課題ー」(2011年2月8日、函館市)
 - 14.新聞労連・産業政策研究会全国集会(主催、ワークショップ講師、2013年8月24-25日、東京都)
 - 15.宮崎日日新聞労働組合・産業政策研究講演会講師「宮日の明日・宮崎の未来」(2013年8月27日、同社)
 - 16.宮崎公立大学・ジャーナリズム論ゲスト講義(水野剛也教授集中講義)「宮崎の明日はどちだ!?ーメディアの行方と若者の未来」(2013年8月28日)
 - 17.青森大学・青森商工会議所「まちなかキャンパス」第1回講演「新幹線とまちづくり」(2013年9月12日、アウガ)
 - 18.青森市観光ボランティア交流会・講師「『はやぶさ』のある風景とボランティア」(2013年11月1日、青森市観光交流施設ワ・ラッセ)
 - 19.観光カリスマ角田周氏主催シンポジウム・東北新幹線新青森開業3周年記念「新幹線活性化カリスマ放談」(2013年12月4日、アウガ)
 - 20.新聞労連・消費税対策検討チーム・検討会コーディネーター(2013年12月~2014

年 4 月、6 回、東京都)

21. 青森公立大学・金融学習会講演「新幹線とまちづくり」(2013 年 12 月 18 日、同大)
22. 幸畑団地・居住状況調査報告会報告「幸畑団地の居住状況調査について」(2014 年 2 月 8 日、青森市幸畑福祉館)
23. 青森市消費者教育モデル事業・青森市「クッキー」(自立訓練・生活訓練施設)講演(2014 年 2 月 17 日、同所)
24. 青森商工会議所・食品部会総会講演「食を通じた街おこし」(2014 年 2 月 27 日、青森市)
25. 青森大学・第 1 回青森地域フォーラム「青森の今と未来を考える」、報告「幸畑プロジェクト」(2014 年 3 月 8 日、リンクステーションホール青森)
26. 青森大学オープンカレッジ「新幹線と青森の将来ー『函館』に向けて『新青森』を考える」(2014 年 5 月 9 日)
27. 東北活性化研究センター・津軽海峡圏広域観光シンポジウム in 仙台「新幹線が変えた東北の現状と課題」(2014 年 9 月 4 日、仙台市)
28. NPO 法人クリエイト・第 5 回まち塾授業「まちで暮らす 地域と生きる」(2014 年 9 月 23 日、青森市)
29. 「空き家で空き家シンポジウム」開催(2014 年 10 月 2 日、幸畑団地地区まちづくり協議会・青森県住みかえ支援協議会と共催、幸畑団地)
30. 新聞労連東北地連・拡大常任委員会講演「若者と語らい未来へ〜『オヤジ』からの新聞奪回作戦」(2014 年 11 月 21 日、弘前市民センター)
31. 青森大学公開講座「第 2 回まちなかキャンパス」講演「県民の視点からみた東北新幹線開業」(2014 年 11 月 26 日、青森市・シュトラウス)
32. 大学コンソーシアム富山・第 2 回コラボ塾講演「新幹線時代の『富山』像ー先行事例から考える」(2014 年 12 月 9 日、富山市)
33. 今別町役場・職員勉強会「Facebook を活用した情報発信」(2014 年 12 月 12 日、同町役場)
34. むつ市民生委員児童委員研修会「地域防災力をどう向上させるか」(2015 年 1 月 9 日、むつ市)
35. はちのへ観光復興委員会・八戸前沖さばブランド推進協議会・観光セミナー「新幹線が変えた八戸」講演(2015 年 1 月 29 日)
36. 公開フォーラム「新幹線が変えた青森・弘前・八戸」企画・開催(2015 年 1 月 31 日、青森中央市民センター、青森大学地域貢献センター共催・あおもり観光デザイン会議協力、青森学術文化振興財団助成事業)
37. 板柳ロータリークラブ定例会講演「新幹線が変えた青森」、2015 年 4 月 7 日、板柳町
38. 「国土政策と地域振興策から見た東北・北海道新幹線の意義」、新幹線ほくとう連携

研究会・第3回会合、2015年5月13日、札幌市（一般財団法人・北海道東北地域経済総合研究所主催）

39. 「どう見る第三の新幹線開業－金沢・富山の事例から－」、問屋町支店長・所長連絡会第8回定時総会・講演、2015年5月14日、青森市・ホテル青森
40. 「自閉症の人たちが住みやすい街づくり～災害時も安心できる地域社会～」、青森県自閉症協会講演会、2015年7月25日、青森県総合社会教育センター
41. 「東北新幹線と北海道新幹線」、青森市・油川寿大学院、2015年12月18日、油川市民センター
42. 「東北新幹線が変えた青森－北海道新幹線開業に向けて－」、鉄道・運輸機構講演、2015年9月8日、アスパム
43. 「地域防災力をどう向上させるか」、青森市・沖館市民センター研修会、2015年11月26日
44. 「北陸新幹線延伸開業後の現状と対策について」、新潟商工会議所・輸送業部会講演、2015年7月24日、同所
45. 「幸畑における空き家活用について」、不動産保証協会青森県本部・第1回青森地区一定課程法定研修会、2015年7月28日
46. 「北海道・新函館北斗開業あと7カ月・新幹線をどうみるか－青森・全国の事例から－」NHK 函館放送局・勉強会講師、2015年8月26日
47. 「人口減少時代における地域社会と『家』の役割について」、青森県宅地建物取引業協会・ハトマーク消費者セミナー、2015年11月3日
48. 「新潟の新幹線とその活用の課題」、「にいがた22の会」例会講演、2015年12月3日、新潟市
49. 公開フォーラム「まち・駅・未来を考える－北海道新幹線開業に向けて－」、2015年12月12日、新町キューブ、青森大学付属総合研究所と共催、平成27年度青森学術文化振興財団・助成事業
50. 北海道経済産業局「北海道新幹線開業を契機とした産業活性化セミナー」講演・「北海道新幹線開業をどう生かすか」、2016年2月19日、札幌市
51. 青森大学・第3回青森地域フォーラム報告「青森大学の地域貢献－連携協定パートナーとの活動を中心に」、2016年2月20日、青森中央市民センター
52. NPO 法人あおもり若者プロジェクト・クリエイティブ第21回「まち塾」講演「新幹線がやってくる」、2016年2月27日、青森市民ホール
53. 五戸町民大学講座「地域防災力をどう向上させるか」、2016年3月17日、同町役場
54. 青森市・沖館市民センター講演「まちづくりの視点から考える東北・北海道新幹線のゆくえ」、2016年7月14日
55. 松山商工会議所・産業振興委員会「函館・青森視察」講話「新幹線は地域をどう変えるのか－東北・九州・北陸・北海道－」、2016年8月1日、函館市・ロワジール

ホテル函館

56. 三陸防災社会研究会「今だからこそ未来へつながるまちづくり講演会」、「鉄道とまちづくりー論点整理の試みー」、2016年9月2日、大船渡市・カメラホール
- 57~59.青森県社会教育センター・ボランティア関係職員ネットワーク形成セミナー「地域課題克服のためのネットワークを広めよう！ー人口減少・高齢化への適応に向けてー」、2016年10月19日・青森県総合社会教育センター、10月21日・八戸市視聴覚センター児童科学館、10月21日・弘前市中央公民館岩木館
- 60.黒石市・未来塾「地域で高める防災力～災害時のリスクと心構え～」、2016年10月4日、浅瀬石公民館
- 61.「新幹線ネットワークを考えるー北海道・東北・北陸・九州」、平成28年度公益社団法人青森県不動産鑑定士協会一般開放講演会、2016年10月14日、ワ・ラッセ
- 62.日本商工会議所「地域振興と整備新幹線に関する勉強会」講師、2016年12月26日、同所)
63. 青森地方気象台講演「『防災』と地域をどう結ぶか」、2017年2月14日、同気象台
- 64.青森県委託事業「地域社会・企業を通じて考える青森県内で『働く・生きる』ことのポテンシャル研究事業」発表会開催、2017年2月16日、青森大学、NPO法人ひろだいりサーチと共催
- 65.「幸畑ヒルズと青森大学のこれまでとこれから」、2017年2月18日、青森大学・第4回青森地域フォーラム、青森市しあわせプラザ
- 66.「『かがやき』をどう超えていくかー人口減少下の北陸新幹線活用法をめぐって」、2017年2月20日、上越市議会講演、同市議会
67. 北海道新幹線開業1周年記念フォーラム基調講演「道南と東北・青函の将来像ー北海道新幹線の開業効果と今後の課題について」、2017年3月25日、函館市・ホテル函館ロイヤル
68. 青森青年会議所・あおもり未来サミット「人口減少社会にどう向き合うかー青森市の『今』と『未来』」、2017年4月16日、サンロード青森
69. 青森法人会経理研究会・第361回月例会「新幹線ネットワークを考えるー北海道新幹線の開業効果と今後の課題について」、2017年4月18日、青森県食糧会館

[学内各種委員]

(全学) 学長補佐室、地域貢献センター員、学習支援センター員、青森大学附属総合研究所・地域問題研究班員、観光文化研究センター員、情報・IT委員

氏名 工藤 雅世 (KUDOH Masayo)

所属 社会学部社会学科

職名 教授

生年月日 1952年10月5日

[履歴]

[学歴]

1975年3月 弘前大学人文学部文学科卒業(国文学専攻)

1995年7月 筑波大学大学院修士課程修了

[学位]

修士

[職歴]

1975年4月 NHK青森放送局FM放送ディスクジョッキー

1977年4月 青森県立高等学校教諭

1983年4月 フリーランス・ジャーナリスト

1993年4月 青森大学兼任講師

1995年4月 青森大学講師

1997年4月 青森大学助教授

2008年4月 青森大学教授

[所属学会]

日本レジャー・レクリエーション学会、全国大学国語国文学会、日本教育保健学会

[教育活動]

[担当科目]

地域観光学Ⅰ・Ⅱ、地域マーケティング論、図書館概論、図書館施設論、情報サービス演習、
図書館総合演習、社会学演習Ⅰ・Ⅱ

[卒業研究指導]

2006年卒業論文：12名

2007年卒業論文：13名

2008年卒業論文：12名

2009年卒業論文：3名

2010年卒業論文：5名

2011年卒業論文：3名

[ゼミ指導]

2006年：25名

2007年：25名

2008年：15名

2009年：6名
2010年：30名
2011年：28名
2012年：36名
2013年：32名
2014年：30名
2015年：26名
2016年：27名

[教育指導に関する特記事項]

1. 自治体等による委託調査実施

自治体等から依頼を受けた社会調査を学生と共に実施し、その成果を調査報告書としてまとめ、調査依頼主に提出している。これまでの主な調査依頼主を以下に示す。

- 1) 青森県地域振興課
- 2) 青森県南郷村（当時）
- 3) 岩手県遠野市
- 4) 遠野ビール協同組合
- 5) サンタランド白神（当時）
- 6) 青森県南郷村・名川町・福地村（当時）における3公共宿泊施設
- 7) 黒石こみせ保存会

2. 社会調査および調査報告書作成指導

社会調査の方法、および、調査結果を調査報告書として作成することに関し、学生を指導している。

3. 調査報告会実施

社会調査をした結果に関する調査報告会実施に関し、発表する学生を指導している。

例えば、以下のシンポジウムにおいて、学生が、「地域の固有価値としての文化資本を活用した『持続可能な観光』プログラムの開発」をテーマに調査・研究した結果を発表する際、指導をした。

同シンポジウムにおいては、筆者の研究室の学生による調査・研究結果、および、同結果を、本学ソフトウェア情報学部の学生がコンピュータ・グラフィックスで表現したものを、それぞれ発表。異なる専門分野の学生たちのコラボレーションによる研究結果を発表した。
・「黒石市歴史的町並み景観シンポジウム：歴史的町並み景観を活かした観光のあり方を考える」（主催：黒石市・黒石市教育委員会・青森大学・黒石こみせ保存会）（2007年2月11日）

4. 青森市による事業「あおもり街てく」に関する調査

1) 「あおもり街てく」（青森市中心市街地を対象とした散策型観光プログラム）3D CG版のコンテンツ充実

同コンテンツ充実のために、ゼミ生と共にアイデア生産をした。アイデア生産に当たり、当該中心市街地を対象としたフィールド調査をゼミ生と共に実施。隠れた魅力・土地の記憶を感じ取れる事柄の掘り起こしを行った。

3D CG版の開発は、本学ソフトウェア情報学部「デジタル青森」プロジェクトチームが担当した。学内の文理融合型プロジェクトと位置づけられる。

2) 「あおもり街てく」ショートコース開発

「あおもり街てく」3D CG版のショートコース（所要時間1時間～1時間半）のコンテンツ開発を、ゼミ生と共にを行った。同開発に当たり、当該中心市街地を対象としたフィールド調査をゼミ生と共に実施。隠れた魅力・土地の記憶を感じ取れる、訴求力の高い事柄の掘り起こしを行った。

3D CG版の開発は、本学ソフトウェア情報学部「デジタル青森」プロジェクトチームが担当した。学内の文理融合型プロジェクトと位置づけられる。

同ショートコースに関して2012年11月、「あおもり街てく」の主管課である青森市観光課に対し、プレゼンテーションを行った。

3) 「あおもり街てく」新コース開発のための調査

「あおもり街てく」新コース開発のためのフィールド調査をゼミ生と共に実施した。フィールド調査の結果を、観光学およびマーケティング論を分析視角として分析した。一連の行為に関し、ゼミ生を指導した。

5. 散歩プログラム開発

1) 幸福な地域を目指して一異分野を接続する

「まずは青森市を」幸福な地域とすること」を大目的に、「健康増進」「観光振興」「中心商店街活性」をホリスティックに捉えた散歩道プログラム開発を目標とし、ゼミ生と共に【ヘルス・ツーリズム@本州北端の都市：健康・観光・中心商店街のサイクル】の開発を続行している（2014年4月～現在）。

地域の内発的発展、および、経済の地域内循環の実現に向け、ヘルス・ツーリズム（健康回復・増進・維持、病気予防のための観光）の視点から開発している。

6. 青森大学教育研究プロジェクト「行動変容のための自己マネジメント促進ポイントシステムの構築と活用」

本学1年生を対象に、学生による自己管理を援助し、学生の自己肯定感向上・学生生活における行動変容促進を目的として、社会学部・ソフトウェア情報学部の教員と共に（合計4人）、（株）リンクステーションと連携して実証実験を実施した（2014.10.29～12.17）。

ゲーミフィケーションの考え方にに基づき、カードによるポイントシステムをベースに仕組みを設計、同実験の前後における自己肯定感の変化を「セルフ・エフィカシー」の概念を分析視角として分析した。

【研究活動】

【研究テーマ】

1. 自律的観光に関する研究
2. ヘリテージ・ツーリズムに関する研究
3. 歴史的環境の維持・活用に関する研究
4. ヘルス・ツーリズムに関する研究
5. コンテンツ・ツーリズムに関する研究
6. 空間環境に関する研究

[著書、論文、総説]

1. 「文化と観光・自律的観光の視点から」都市問題研究 681、都市問題研究会、2007年9月
2. (共同研究)「散策型観光支援モバイル Web アプリケーションの開発」研究紀要 117、青森大学学術研究会、2013年11月
3. 「博物館・美術館などを訪問する」青森大学学習支援センター編『平成26年度青森大学基礎スタンダードテキスト 必携 学びの道しるべ』pp42-46、2014年4月
4. (共同研究) 学生のセルフ・マネジメントのためのゲーミフィケーション・プラットフォームAOC aの設計と実装、紀要第16巻2号、青森大学附属総合研究所、2015年
5. 「青森アドベンチャー」(ヘルス・ツーリズムの視点から開発した散歩プログラムのWebサイトのコンテンツ) 2015年1月
6. 「観(み)るテツ@本州北端の都市」(ヘルス・ツーリズムの視点から開発した散歩プログラムのWebサイトのコンテンツ) 2015年1月
7. 「太宰治ゆかりの地と海辺の散歩道」(ヘルス・ツーリズムの視点から開発した散歩プログラムのWebサイトのコンテンツ) 2015年3月
8. 「博物館・美術館などを訪問する」青森大学学習支援センター編『青森大学基礎スタンダードテキスト 第二版 必携 学びの道しるべ』pp46-51、2016年4月
9. 「散歩プログラムを開発：課題を横断的に解決するために」青森大学学習支援センター編『青森大学基礎スタンダードテキスト 第二版 必携 学びの道しるべ』pp105-107、2016年4月
10. 「タブレット端末とクラウドシステムを利用した発達障害の児童向け生活訓練サポートシステムの開発」(研究者・角田均)において「3.3 聞き取り調査による検証」を執筆。公益財団法人・大川情報通信基金、2017年3月

【学会発表】

1. (共同研究)「発達障がいを持つ子供の生活訓練のためのゲーミフィケーション・アプリの開発」情報処理学会第78回全国大会、2016年3月
2. (共同研究)「発達障がいを持つ子供の生活支援のためのWeb+Androidシステム」情報処理学会第79回全国大会、2017年3月

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1. 国立民族学博物館共同研究員として、同博物館共同研究会「ヘリテージ（遺産）の所有と利用に関する観光文明学的研究」において研究・発言した。2005～2008 年度
2. 社団法人・日本ニューオフィス推進協議会・FM資格試験実力養成講座「論述」担当講師として、論述の書き方に関する講義を行った。2006～2013 年度
3. 青森県総合社会教育センター・あすなろマスターカレッジ人文科学コース講師として講義・演習を行った。2007 年度～2008 年度
4. 「黒石市歴史的町並み景観シンポジウム：歴史的町並み景観を活かした観光のあり方を考える」（主催：黒石市・黒石市教育委員会・青森大学・黒石こみせ保存会）においてパネリストを務めた。2007 年 2 月 11 日
5. 北海道大学観光学高等研究センター共同研究会・共同研究員として活動する。2014 年 3 月～現在
6. みちのく銀行国道支店開設 120 周年記念講演「イノベーションとオフィス環境」を行った。2014 年 9 月 2 日
7. 大野女性大学・大学院において講義「旅の魅力と観光の力」を行った。2014 年 10 月 28 日
8. まちなかキャンパスにおいて講義「ヘルス・ツーリズム@本州北端の都市：健康・観光・中心商店街活性のサイクル」を行った。2014 年 12 月 3 日
9. 問屋町支店長・所長連絡会 第 9 回定時総会記念講演会において講演「ヘルス・ツーリズム+コンテンツ・ツーリズム@本州北端の都市：「健康」「観光」「中心商店街」を接続する」を行った。2016 年 6 月 7 日
10. 青森県総合社会教育センター・平成 28 年度 生涯学習・社会教育関係職員研修講座 第 3 回中堅職員研修において講義「住民主体のまちづくり：地域の魅力を発見するために」を行った。2016 年 9 月 5 日
11. 弘前大学生涯学習教育研究センター・白神自然環境人材育成講座において講義「青森県の観光戦略と白神山地の可能性」を行った。2017 年 2 月 11 日

[国際交流]

1. タイの大学生 28 人と本学学生による、本学における交流イベントをプロデュースした。2014 年 10 月 21 日

[地域貢献]

1. 「『地域を遊ぶ』あおもりクエスト」実証実験（青森大学地域連携プロジェクト）のメンバーとして、企画・マネジメント・運用を担当。同クエストは、本学学生による青森市内の文化施設を対象とした見学を核とし、学生による地域連携活動のサポートツールとして、FeliCa カードを活用したもの。2013 年 2 月～2014 年 12 月
2. 青森市における散歩プログラムを開発。「健康増進」「観光振興」「中心商店街活性」を接続し、課題の横断的解決を目指す。2014 年 4 月～現在

[学内各種委員]

2006年度 就職委員会委員、教務委員会委員、バリアフリー委員会委員
2007年度 就職委員会委員、教務委員会委員、バリアフリー委員会委員
2008年度 就職委員会委員、企画・運営委員会／ホームページ委員会委員、自己点検委員会委員
2009年度 就職委員会委員、企画・運営委員会／ホームページ委員会委員、自己点検委員会委員
2010年度 就職委員会委員、企画・運営委員会／ホームページ委員会委員
2011年度 就職委員会委員、情報・IT委員会委員、教務委員会委員、大学案内作成小委員会委員
2012年度 就職委員会委員、情報・IT委員会委員、学生委員会委員、大学案内作成小委員会委員、司書養成課程主任
2013年度 情報・IT委員会委員、学生委員会委員、学生募集委員会委員、司書養成課程主任
2014年度 情報・IT委員会委員、学生委員会委員、学生募集委員会委員、司書養成課程主任
2015年度 情報・IT委員会委員、学生委員会委員、学生募集委員会委員、司書養成課程主任
2016年度 情報・IT委員会委員、学生委員会委員、司書養成課程主任
2017年度 情報・IT委員会委員、学生委員会委員、司書養成課程主任

[学外各種委員]

2006年度 青森県環境審議会委員、青森県地球温暖化対策推進委員会委員、財団法人・東北産業活性化センター「教育文化施設の活用による地域活性化に関する調査」委員会委員
2007年度 青森県環境審議会委員、青森県地球温暖化対策推進委員会委員
2007～2008年度 青森県総合社会教育センター・あすなろマスターカレッジ企画委員会委員
2007～2008年度 青森県総合社会教育センター・あすなろマスターカレッジ人文科学コース検討委員会委員
2008年度 青森県環境審議会委員、青森県地球温暖化対策推進委員会委員
2009年度 青森県環境審議会委員、青森県地球温暖化対策推進委員会委員、青森県水産振興審議会委員
2011年度 青森県立郷土館協議会委員
2012年度 青森県立郷土館協議会委員
2013年度 青森県立郷土館協議会委員、三内丸山応援隊理事
2014年度 青森県立郷土館協議会委員、三内丸山応援隊理事
2015年度 青森県立郷土館協議会委員、一般社団法人・三内丸山応援隊理事

2016 年度 青森県立郷土館協議会委員、青森県景観形成審議会委員、一般社団法人・三内丸山応援隊理事

氏名 齋藤 直人 (SAITOH Naohito)

所属 社会学部社会学科

職名 教授

生年月日 1958 年 6 月 25 日

[履歴]

[学歴]

1981 年 3 月 日本体育大学体育学部体育学科卒業

[学位]

体育学士

[職歴]

1981 年 8 月~12 月 弘前工業高校非常勤

1985 年 4 月~1987 年 3 月 弘前中央高校非常勤

1987 年 4 月~1990 年 3 月 青森山田高校教諭

1990 年 4 月~1993 年 3 月 青森大学講師

1993 年 5 月~2007 年 3 月 青森大学助教授

2007 年 4 月~ 青森大学准教授

2012 年 4 月~ 青森大学教授・学生部長

2017 年 4 月~学生部長・学生支援センター運営委員・ハラスメント委員会委員長

[所属学会]

日本体育学会、全国大学体育連合

[教育活動]

[担当科目]

体育実技・レクリエーション指導法・体育実習（球技）・体育方法学（球技）

スポーツマネジメント論・シーズンスポーツ A,B

[教育指導に関する特記事項]

- 1, 競技方法を簡略化することにより各種目への導入を容易くし、初心者が早く興味を持てる様にした。結果欠席が減った。
- 2, 少人数でチームを作らせリーグ戦形式を各種目に取り入れた。結果欠席が減った。
- 3, 競技を通じてリーグ戦での順位決定や入れ替え戦の方法を学ぶ。
- 4, 授業外で各運動部のトレーニングやりハビリ相談をしたところ、年々増えている。

[研究活動]

- 1,球技種目のオフシーズンにおけるトレーニング方法と効果について。

[研究テーマ]

- 1,球技種目のトレーニング
- 2,初心者への指導法

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

- 1, 「軽スポーツを楽しむ」 オープンカレッジ
- 2, 高校生バレーボール練習会の開催
- 3, 「中学生バレーボール教室」 むつ市バレーボール協会
- 4, 「高校バレーボール教室」 八戸市バレーボール協会
- 5, 春高バレー決勝 TV解説

[学内各種委員]

- 1, 学生委員会
- 2, ハラスメント委員会
- 3, 学生支援センター
- 4, 中央委員会副会長

[学外各種委員]

- 1, 青森県バレーボール協会強化担当副会長
- 2, 青森県体育協会評議員
- 3, 青森県大学バレーボール連盟理事長

「課外活動」 バレーボール部監督

- 1, 平成18年度東北地区大学総体 優勝
- 2, 平成18年～20年青森県一般6人制選手権 優勝
- 3, 平成5年～平成22年 東北大学1部リーグ所属
- 4, 平成5年～平成21年 青森県大学選手権 優勝
- 5, 平成26年東北大学1部リーグ復帰

名 佐藤 豊 (SATO Yutaka)

所属 社会学部社会学科

職名 教授 (社会学部 学科長)

生年月日 1952 年 8 月 27 日

[履歴]

[学歴]

1981年3月 東京都立大学経済学部経済学科卒業

1985年3月 東京都立大学人文学部仏文科卒業

1993年3月 学習院大学人文科学研究科イギリス文学後期課程満期退学

[学位]

文学修士

[職歴]

1971年 株式会社 弥生工業入社

1975年 明治薬科大学学生課勤務

1979年 株式会社農林出版編集部入社

1982年 桐光学園中学高等学校勤務

1993年 青森大学社会学部社会学科専任講師

1999年 青森大学社会学部社会学科助教授

2002年 青森大学社会学部社会学科教授 (現在に至る)

[所属学会]

日本比較文化学会 (役員)

[教育活動]

[担当科目] 英語Ⅰ・Ⅱ (経営学科、社会学科、ソフトウェア情報学科、薬学科)、英語Ⅲ (選択英語)、キャリアデザインⅠA・B、就職活動実践演習A・B

[学生指導に関する特記事項]

1. バスケットサークル顧問

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 英語教育

(2) イギリス古典派詩人ジョン・ドライデン

[著書]

1. 『古典・聖書・文学基礎事典』A.H.ラス、共訳、1992年7月、北星堂.

2. 『雌鹿と豹』(ジョン・ドライデン)、単訳、1994年3月、『研究紀要』(青森大学・青森短期大学)

3. 『地球からの手紙』(マーク・トウエイン)、共訳、1995年5月、彩流社

4. 『ミステリアス・ストレンジャー44号』(マーク・トウエイン)、共訳、1995年9月、彩

流社.

5. 『アメリカ教養辞典』、共訳、1995年9月、丸善株式会社.
6. 『ウォルター・スコット伝』共訳、2001年5月、彩流社.
7. 『平信徒の宗教』(ジョン・ドライデン)、翻訳、2010年7月、『研究紀要』(青森大学・青森短期大学)
8. 『メダル：扇動に反対する諷刺』(ジョン・ドライデン)、翻訳、2011年7月、『研究紀要』(青森大学・青森短期大学)
9. 『ドライデン 『平信徒の宗教』とメダラー近代イギリス史の中の詩と政治』、単著、2012年12月.
10. 『イギリス文化事典』(一部執筆担当)、2014年11月、丸善出版.

[論文]

1. 「ポープとヴォルテール」、単著、1990年11月、学習院大学英文学会誌.
2. 「ポープの『人間論』－オプティミズムとその周辺」、単著、1991年3月、学習院大学文学部年報.
3. ドライデン『平信徒の宗教』を読む①」、単著、1994年2月、『構築』第九号.
4. 「スコットの歴史小説と大陸への影響」、単著、1997年11月、『研究紀要』(青森大学・青森短期大学)
5. 「ブレイクの悪魔像」、単著、2001年2月、『研究紀要』(青森大学・青森短期大学)
6. 「ポープとブレイク」、単著、2002年3月、『研究紀要』(青森大学・青森短期大学)
7. 「ポープとブラックモア」、単著、2003年3月、『研究紀要』(青森大学・青森短期大学)
8. 「ポープの『人間論』と大陸への影響」、単著、2004年4月、『構築』第15号.
9. 「ポープとサミュエルソン」、単著、2005年7月、『研究紀要』(青森大学・青森短期大学)
10. 「ドライデンの『平信徒の宗教』を読む②－フランスの影響から見たドライデンの宗教観」、『構築』2007年3月17号 単著
11. 「古典作家を通してドライデンの『アブサロムとアキトフェル』を読む」、単著、2008年3月、東北英文学会『Proceedings (第60大会)』.
12. Reading The Duke of Guise written by John Dryden and Nathaniel Lee - A Literary Work Where Two Big Parties Stand in Opposition -, 単著、2009年7月、研究紀要(青森大学・青森短期大学)第32巻第1号.
13. 「英国二大政党のせめぎ合いの中の文学とは」、単著、2010年11月、「文学の万華鏡」(れんが書房新社)所収.
14. 「メダルの表裏に描かれた事実とは何か－ドライデン『メダル』を読む」、単著、2012年3月、「ヘルメスたちの饗宴」(音羽書房鶴見書店)所収.
15. 「ドライデンの生誕地と清教徒の家庭環境」(5頁担当)、『イギリス文学を旅する60章』(明石書店)所収(近日販売予定).

[学会発表]

1. 「ブレイクと悪魔像」、東北英文学会シンポジウム（場所：福島大学）、2000年11月.
2. 「ポープとブレイク」、イギリスロマン派学会全国大会（場所：札幌大学）、2001年11月.
3. 「ポープとブラックモア」、東北英文学会（場所：東北大学）、2002年11月.
4. 「ポープと『人間論』と大陸への影響」、日本比較文学東北・北海道支部大会（場所：福島大学）、2003年12月.
5. 「ポープとサミュエルソン」、日本英文学会（場所：日本大学文理学部）、2005年5月.
6. 「ドライデンの『平信徒の宗教』－大陸の影響から読み直す」、日本比較文学会東北支部大会（場所：福島大学）、2006年11月.
7. 「古典作家を通してドライデンの『アブサロムとアキトフェル』を読む」、東北英文学会（場所：山形大学）、2007年11月18日.
8. 「ドライデン・リー合作『ギーズ公爵』（悲劇）を読む－二大政党のせめぎ合いの中の文学－」、日本比較文化学会 東北支部・関東支部合同発表会（場所：弘前学院大学）2008年11月.
9. 「ドライデンと物理神学（physico-theology）について」、日本比較文化学会東北支部大会（場所：弘前学院大学）、2009年10月.
10. 「英語の授業で映画制作にチャレンジ」、日本比較文化学会東北支部大会（場所：弘前学院大学）、2014年3月.

[その他の活動]

[学内各種委員]

1. 社会学部 学科長 就職委員、
2. 学習支援センターミニセミナー担当
3. 語学関係の委員

氏名 宍戸 聡 純 (Shishido Toshisumi)

所属 社会学部社会学科

職 種 教授

生年月日 1960年3月26日

[履 歴]

[学 歴]

1984年 3月 青森大学経営学部経営学科 卒業

[学 位]

経営学士

[職 歴]

1984年 4月 株式会社富士通システム研究出向

1985年 10月 学校法人青森山田学園採用

同年 株式会社富士通システム出向

1987年 4月 青森短期大学助手

1990年 4月 青森短期大学講師

1998年 4月 青森短期大学助教授

2004年 4月 青森短期大学教授、副部長

2006年 4月 青森短期大学部長

2013年 4月 青森大学社会学部社会学科教授、青森大学事務局次長

2013年 4月 青森大学社会学部社会福祉学科教授、青森大学事務局長

2016年 4月 学校法人青森山田学園副本部長兼企画部長

青森山田学園スポーツ健康センター センター長

2016年 10月 青森大学国際教育センター センター長

[受 賞]

[所属学会]

情報処理学会、大学行政管理学会

[教育活動]

[担当科目]

地域貢献演習、情報処理Ⅱ、情報リテラシー、情報の集計・分析、
じょっぱり経済学（コーディネーター）、あおもり学（コーディネーター）

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

[教育指導に関する特記事項]

・参加型授業の展開

[研究活動]

[研究テーマ]

- ・青森大学の学生募集　－入学生確保への戦略－
- ・地方総合大学の魅力とは　－学びたいキャンパス－
- ・大学生の資格取得指導　－教育と指導
- ・SD　－専門職としての大学職員をどのように養成するか－
- ・地方私立大学における特色ある留学生教育
- ・スポーツを幅広く捉えた上で、スポーツの有する効果などを活かした地域づくり、地域の活性化

[著書、論文、総説]

2000年3月「　コンピューターリテラシーにおける工夫」

－短期大学における教科別授業の工夫－　青森大学・青森短期大学学術研究会

[学会発表]

[その他の活動]

2011年4月　学校法人青森山田学園評議員

2012年4月　学校法人三ツ葉学園理事

2012年4月　北東北地区大学野球連盟理事

2012年7月　青森大学自己評価担当者（Liaison Officer=LO）

[公開講座、講演、セミナー]

[学内各種委員]

- ・青森大学学長補佐
- ・青森大学国際教育センター　センター長
- ・青森大学協議会
- ・自己点検評価・認証評価審査対策委員会　LO

氏名 鈴木 康 弘(スズキヤスヒロ)

所属 青森大学社会学部

職種 教授

生年月日 昭和 32 年 1 月 1 日

[履 歴]

[学 歴]

1980 年 3 月 東北大学教育学部教育心理学科卒業

1982 年 3 月 東北大学大学院教育学研究科博士前期修了

1987 年 3 月 東北大学大学院教育学研究科博士後期課程満期退学

[学 位]

教育学修士

[職 歴]

1987 年 4 月 青森大学経営学部専任講師 (1991 年 3 月まで)

1992 年 4 月 青森大学経営学部助教授 (1993 年 3 月まで)

1993 年 4 月 青森大学社会学部助教授 (2002 年 3 月まで)

2002 年 4 月 青森大学社会学部教授 (現在に至る)

2003 年度 教員審査・青森大学・教授 (担当科目：教育心理学、教育原理、教職総合演習)

2008 年 4 月 青森県立保健大学非常勤講師 (担当科目：教育心理学、現在に至る)

2010 年 4 月 青森市立高等看護学院非常勤講師 (担当科目：教育学、現在に至る)

[受 賞]

特になし

[所属学会]

日本教育心理学会

[教育活動]

- 1) 青森大学「教学改革タスクフォース」メンバーとして、学士課程教育の質的転換を推進している。
- 2) 高大連携活動への学生の参画を進め、学生の汎用的能力（コミュニケーション・スキル、態度（自己管理能力）等の育成を図っている。
- 3) 反転授業等、自宅での事前の知識習得や学修を改善・追求している。
- 4) グループ単位の活動を組みこんだアクティブ・ラーニングを活用した授業を開発し実践している。

[担当科目]

「教育心理学」、「教育原理」、「教職実践演習」、「社会学演習Ⅰ」、「心理学」、「心理学理論と心理学的支援」、「学問のすすめ」、「基礎演習」、「地域貢献基礎演習」、「キャリアデ

ザインⅠA)、「キャリアデザインⅠB)、「キャリアデザインⅡA)、「キャリアデザインⅡB)」、
「就職活動実践演習A)、「就職活動実践演習B)

[卒業研究指導]

担当なし

[ゼミ指導]

- 1) 「社会学演習Ⅰ」：現代社会において解決が求められている課題を発見する力、その原因や背景を調べる力、その解決方法を模索する力を引き出すために、統計グラフ作成・発表に取り組んだ。
- 2) 「基礎演習」：新入生全員を対象に、ノートテイキング、プレゼンテーション、レポート作成、グループワーク、ディベート等の大学生の学修スキルを定着させる取り組みを行った。
- 3) 「地域貢献基礎演習」：新入生に対して、社会人基礎力に対応する「と就労支援NPO等が協働して、「変わる」「体験する」「大学生活の目標を立てる」の3つのフェーズでキャリアサポートを展開した。
- 4) 「就職活動実践演習A)および「就職活動実践演習B)」：学生が就職活動に対して自らのキャリアデザインとして積極的に取り組めるよう、業界・業種の研究活動や面接等のスキルアップを指導した。

[教育指導に関する特記事項]

- 1) 「基礎演習」及び「地域貢献基礎演習」の科目コーディネーターとして、教員チームとともに授業の設計・実践を行った。
- 2) 「社会学演習Ⅰ」において、学生が青森県統計グラフコンクールに作品を出品するとともに、青森市内の高等学校の総合的学習の時間で取り組んだ統計グラフ制作をサポートする活動を指導した。

[研究活動]

- 1) 地域貢献活動における学生の参画能力に関する研究
- 2) チームティーチングを採用した授業の教育効果に関する研究
- 3) 学修の自己評価の適切性向上に関する実践的研究

[研究テーマ]

アクティブ・ラーニングの教育評価、汎用的能力の育成に役立つルーブリック開発、自己評価能力の発達的研究

[著書、論文、総説]

「学習評価における『関心・意欲・態度』の測定と児童生徒の学校生活の質及び社会的逸脱の評価に関する考察—古典的テスト理論と項目反応理論の応用」、共著(鈴木康弘、澁谷泰秀、渡部 諭) 青森大学研究紀要第39巻—大3号(2017年2月)

[学会発表]

特になし

[その他の活動]

特になし

[公開講座、講演、セミナー]

- 1) 講演：「科学的療育のための基礎心理学」（クラ・ゼミ青森篠田校、平成 28 年 9 月 10 日）

[学内各種委員]

教務委員会（部長）、FD 委員会、地域貢献委員会、教学改革タスクフォース、学生募集タスクフォース

氏名 藤 公晴 (TO Kimiharu)

所属 大学 社会学部社会学科

職名 教授

生年月日 1968 年 9 月 21 日

[履歴]

[学歴]

1993 年 12 月 カリフォルニア州立 Humboldt State University 「資源利用に関する社会科学－ Natural Resources Economics and Policy」卒業

2001 年 3 月 青森大学・大学院環境科学研究科修士課程 修了

2015 年 12 月 ニューヨーク州立大学大学院環境科学森林学部博士課程修了

専攻：環境コミュニケーションと参加型プロセス Philosophy of Doctor

論文：Cross-national influence of the term sustainable development upon the field of environmental education: Comparison between the United States and Japan

[学位]

環境科学 博士

[職歴]

2001 年 4 月 社団法人日本環境教育フォーラム 国際事業部

2004 年 12 月退職

2009 年 4 月 青森大学大学院講師

2012 年 4 月 青森大学社会学部准教授

2015 年 4 月 青森大学社会学部教授

[賞罰]

日本政府世界銀行共同大学院奨学金フェロー (2006-2008)

[所属学会]

日本環境教育学会、International Environmental Communication Association (国際環境コミュニケーション学会)、International Comparative Education Association (国際比較教育学会)、日本環境社会学会、全米評価学会 (-2007)、国連システム学術評議会、環境思想・教育研究会

[教育活動]

[担当科目]

社会学演習 I

社会学演習 IV&V

英語 II A & B

環境社会学 I & II

地域貢献基礎演習

英語 I & II A, 英語 I & II B (再履修)

グローバル英語

社会教育学実習

[担当科目]

地域環境概論

環境教育実践論

環境保全学

環境教育学演習 I

環境教育学実習 I

[修士論文指導]

修士論文指導 3名

修士論文副査 6名

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 質的研究方法

(2) 社会運動論

(3) 持続可能な開発 言説論

(4) 環境教育・持続可能な開発のための教育政策

(5) ディープ・エコロジーを中心とした環境思想

[著書・論文]

TO Kimi haru (2015) Cross-national influence of the term sustainable development upon the field of environmental education: Comparison between the United States and Japan. STATE UNIVERSITY OF NEW YORK COL. OF ENVIRONMENTAL SCIENCE & FORESTRY, 2015, 184 pages; 10105244

Cheryll Glotfelty. and Eve Quesnel (Eds). (2014) The Biosphere and the Bioregion: Essential Writings of Peter Berg. Routledge Environmental Humanities Series (Series Editor: Iain McCalman, Libby Robin). Taylor & Francis. New York. ISBN-13: 9780415704403

藤 公晴「ネイチャー・ライティングの授業への導入の可能性をさぐる」環境思想・教育研究会誌、2014 年第 2 号

藤 公晴（共著）『日本型環境教育の知恵：人・自然・社会をつなぎ直す』小学館 第 6 章「官民協働の意義と課題」189-208 ページ、2008 年 9 月

藤 公晴「インタープリテーション、哲学、エコロジー運動-アルネ・ネス氏追悼」環境思想・教育研究会誌、39-43、2009 年第 3 号

藤 公晴「持続可能な開発のための教育（ESD）と環境教育について」（第 4 部第 14 章：169-196 ページ）と「ESD と自然学校の関わりについて」（第 15 章：197-208 ページ）『自然学校指導者養成講座テキスト』 社団法人日本環境教育フォーラム

2009 年

藤 公晴 「インタープリテーション、哲学、エコロジー運動—アルネ・ネス氏追悼」

地球のこども (社) 日本環境教育フォーラム 機関誌 2009 年 7&8 月号 9-10

井上有一、藤 公晴 (共訳) 『ディープ・エコロジー：生き方から考える環境の思想』

昭和堂 第 5 刷 2010 年

[報告書など]

アートが繋ぐ震災の記憶と希望：「月刊れぢおん青森」平成 28 年 6 月号 一般財団法人青森地域社会研究所

藤 公晴 アメリカにおける青少年教育施設等の調査報告 (平成 24 年度文部科学省受託事業) (平成 25 年 3 月)

「諸外国の青少年教育施設等調査」報告書 独立行政法人国立青少年教育振興機構

藤 公晴 特集 諸外国の青少年施設調査 文部科学省・国立青少年教育振興機構合同

研究会 (発表報告) 独立行政法人国立青少年教育振興機構 青少年教育研究セン

ター紀要第 2 号 (平成 25 年 11 月)

[学会発表]

日本環境教育学会第 11 回関東支部大会 (学習院大学) 研究実践報告 (共同発表：降旗信一、

T.C.チャン、キム チャンクック、イ ソンギョン、二ノ宮リムさち、秦範子、片山純子、

藤公晴) 「アジアの環境教育をテーマとした国際共同研究構想の可能性」 (平成 29 年 3 月 12

日)

Comparative International Education Society 2016 Annual Conference

3 月 10 日 Vancouver British Columbia CANADA

1) 指定討論者

Kimiharu To,

Environmental & Sustainability Education SIG Highlighted Session: Contesting and challenging the assumptions of education for sustainable development

Contemplating environmental education and ESD: Cross-national case of Japan and the U.S.

2) ポスター発表

Kimiharu To

Dimensions of education: Cultural, moral, philosophical and social

Contemplating environmental education and ESD: Cross-national case of Japan and the U.S.

環境社会学会第 45 回大会 (秋田県大潟村) 自由報告 (共同発表：西城戸 誠・丸山 康

司・柏谷 至・藤 公晴) 「ポスト開発主義としての再生可能エネルギー事業のための

環境社会学」 (平成 24 年 6 月)

環境社会学会第 44 回大会 (関西学院大学) 自由報告 (共同発表：柏谷 至・丸山 康

司・西城戸 誠・藤 公晴)「再生可能エネルギーと内発的發展-青森県における風力発電事業の「担い手」をめぐる-」(平成 23 年 12 月)

環境社会学会第 42 回大会 (法政大学) 自由報告 (共同発表: 藤 公晴・丸山 康司・西城戸 誠・柏谷 至)「コミュニティ風車及び風力発電ファームの導入にかかる欧米のガイドライン概観」(平成 22 年 12 月)

環境社会学会 第 41 回大会 (岩手県葛巻町) 自由報告 (共同発表: 丸山 康司・西城戸 誠・柏谷 至・藤 公晴)「再生可能エネルギーの需要形成と社会的受容性」(平成 22 年 6 月)

[専門家会合や国際会議発表]

藤 公晴 アメリカの事例 (1) 諸外国の青少年教育施設等調査 文部科学省&国立青少年教育振興機構合同研究会 会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター 平成 25 年 7 月

Kimiharu To. Qualitative Research Approaches for Understanding the Progress of the United Nations Decade of Education for Sustainable Development (DESD), 10th UNESCO-APEID International Conference 6-8 December 2006, Bangkok, Thailand (2006)

[学会における小集会主宰]

藤 公晴 「ESD 研究にかかる解釈学的アプローチの可能性と課題」『日本環境教育学会第 20 回大会』 東京農工大学、2009 年 7 月 26 日

[論文査読など学会活動]

論文査読 Nature+Culture 誌 The Helmholtz Centre for Environmental Research (UFZ) ライプツィヒ, ドイツ (平成 25 年 7 月)

日本環境教育学会編集委員会依頼「研究論文」の原稿査読 (平成 24 年 5 月)

日本環境教育学会青森大会「論文の書き方セミナー」協力 (平成 23 年 7 月)

日本環境教育学会第 22 回大会青森大会 実行委員

日本環境教育学会編集委員会依頼「報告論文」の原稿閲読 (平成 21 年 12 月)

[共同研究]

「アジアの環境教育をテーマとした国際共同研究構想の可能性」(降旗信一、T.C.チャン、キム チャンクック、イ ソンギョン、二ノ宮リムさち、秦範子、片山純子、藤公晴)

Cross-national influence of the term sustainable development upon the field of environmental education: Comparison between the United States and Japan

共同研究者: Sharon Moran (Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境学研究科),

Andrea Parker (Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境科学研究科), Beth

Folta(Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境森林生物学科) (2011~)

科学技術振興機構・社会技術研究会開発センター 助成研究 (2009-2011)

「地域連携による地域エネルギーと地域ファイナンスの統合的活用政策及びその事業化研究」(代表飯田哲也) 地域再生可能エネルギー開発調査グループに参画し、再生可能エネルギーの地域レベル導入に関する青森県内関係者を対象としたアンケート調査、ガイドライン作成、フォーラム「地域のお金とエネルギーを地域と地球に活かす」開催に参画。

[研究協力・支援]

平成 25 年 8-9 月

研究者：Julie Celnik, フランス社会科学高等研究院 (Ecoles des Hautes Etudes en Sciences Sociales) Paris FRANCE

テーマ：Bioregionalism in Japan

[社会貢献および地域活動など]

青森県環境審議会 委員 (平成 24 年度～)

平内町 ハクチョウのまち再生、ハクチョウまつり事業実行委員会委員長 (平成 27 年 6 月～)

第五次青森県環境計画策定検討有識者会議 委員 (平成 26 年度)

青森県社会教育センター「アートがつなぐ震災の記憶と希望」マグダレナ・ソレ氏との対談 3月16日(水)

独立行政法人国立青少年教育振興機構「諸外国の青少年教育施設等調査」

担当：米国農務省等における 4-H の国立青少年施設、青少年行政等に関する現地調査 (Washington D.C. and New York) 平成 24 年 10 月 28 日～同年 11 月 13 日。

青森県教育庁：「青い森水辺を守る環境サミット」全体会コーディネーター 青森県総合学校教育センター 2011 年 11 月

環境思想・教育研究会 第 1 回研究大会 (会場 弘前大学)

環境教育特別セミナー「青森の自然を書(描)くーネイチャーライティングの授業への導入の可能性をさぐるー」総合討論コーディネーター (平成 24 年 9 月)

平成 23 年損保ジャパン SAVE JAPAN 希少動植物の保全にかかる啓発事業 80 万円
9月3日(土)「みんなで守ろう！希少動物オオセッカの生息地 観察会」

場所：岩木川下流部のヨシ原(中泊町) 講師：竹内健悟氏

協力：中泊町博物館、日本環境教育フォーラム、日本 NPO センター、損保ジャパン
参加者数：約 6 名

9月17日(土)「みんなで守ろう！希少動物オオセッカの生息地 観察会」

場所：岩木川下流部のヨシ原(中泊町) 講師：竹内健悟氏

協力：中泊町博物館、日本環境教育フォーラム、日本 NPO センター、損保ジャパン
参加者数：約 25 名

9月18日(日)「みんなで守ろう！希少動物オオセッカの生息地 観察&調査」

場所：岩木川下流部のヨシ原(中泊町) 講師：竹内健悟氏

協力：中泊町博物館、日本環境教育フォーラム、日本 NPO センター、損保ジャパン
参加者数：約 15 名

10月23日(日)「メダカ的生活、水辺の健康、私たちによる保全活動」

場所：青森中央インター LOOP 内ビオトープ 講師：佐原雄二教授(弘前大学農学生命科学部)

参加者数：約 20 名

協力：東日本高速道路(株) 東北支社青森管理事務所、日本環境教育フォーラム、日本 NPO センター、損保ジャパン

藤 公晴「青森県内グリーンツーリズム実践者を対象とした意識動向調査」平成 21 年度農林水産省グリーンツーリズム促進等緊急対策事業

藤 公晴「着地型をベースにしたグリーンツーリズム・モデルコース構想」平成 21 年度農林水産省グリーンツーリズム促進等緊急対策事業

藤 公晴「青森県内グリーンツーリズムにかかる潜在的指導者のリスト作成」平成 21 年度農林水産省グリーンツーリズム促進等緊急対策事業

藤 公晴「青森県内グリーンツーリズム実践者の意識と動向に関する勉強会」アウガ男女共同参画プラザ研修室、2009 年 3 月 12 日 18:30-20:45 主催：青い森グリーンツーリズム推進協議会

藤 公晴 あすなろマスターカレッジ自然科学コース(青森校) 講師 第 12 回 環境コミュニケーション論(9 月 13 日)、第 18 回 イベント企画(11 月 7 日) 青森県立社会教育センター

藤 公晴 青森大学自然学校 OB/OG 会 顧問就任(2009 年 4 月)

藤 公晴「はぐくもう グリーンツーリズム王国」主催：NPO 法人元気王国 共催：河北新報社、荘内銀行 3 月 29 日付 河北新報 紙面対談記事掲載(10 段分、23 ページ)

[国際交流]

Kimiharu To "Teacher Bill." Planet Drum Pulse Planet Drum Foundation Newsletter 2010. なお、同記事は 2009 年 10 月 10 日の故ビル・ディボル氏(カリフォルニア州立大学ハンボルト校社会学部名誉教授)の偲ぶ会における追悼頌徳演説。なお、同演説の動画は www.video.yahoo.com/watch/6298332/16342609 にて配信。

Kimiharu To Planet Drum Foundation (米国環境 NPO) の理事業務
エクアドル共和国 Bahia de Caraquez 市郊外の Bioregional Sustainability Institute (2010 年春開校予定) 設立準備への参画およびコンサルティング。

2010 年バンクーバーと 2014 年ソチ冬季五輪における環境負荷に関する提言活動。

[学内各種委員]

国際教育センター 副センター長

国際交流委員会

学生募集委員会

留学生支援委員会(-2012)

図書委員会(-2012)

[その他]

学校法人青森山田学園 法人本部 本部長補佐

学校法人青森山田学園 評議員

氏名 野崎 剛 (のざき たけし)

所 属 青森大学社会学部社会学科

職 種 教授

生年月日 昭和 35 (1960) 年 1 月 27 日

[履 歴]

[学 歴]

1983 年 3 月 弘前大学人文学部文学科 (東洋史専攻) 卒業

1984 年 4 月 筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類学専攻修士課程入学

1986 年 3 月 筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類学専攻修士課程修了

1986 年 4 月 筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類学専攻博士課程入学

1991 年 3 月 筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類学専攻博士
課程満期退学

[学 位]

文学修士

[職 歴]

1996 年 4 月 青森短期大学商経科講師 (2004 年 3 月まで)

2004 年 4 月 青森短期大学ビジネス創造学科助教授 (2007 年 3 月まで)

2007 年 4 月 青森短期大学地域創造学科准教授 (2009 年 3 月まで)

2009 年 4 月 青森短期大学地域創造学科教授 (2013 年 3 月まで)

2013 年 4 月 青森大学社会学部教授 (現在に至る)

[受 賞]

なし

[所属学会]

社会文化史学会

歴史人類学会

日本道教学会

[教育活動]

[担当科目]

日本史

外国史

図書館サービス概論

図書館情報資源概論

図書館制度・経営論

情報資源組織論

児童サービス論

情報サービス論

[卒業研究指導]

青森短期大学において「ねぶた・ねぶた」に関する地域資料に関する卒論指導をおこなった。

青森大学ではなし。

[ゼミ指導]

青森短期大学において図書館学のゼミを担当し、地域資料に着目してゼミ指導をおこない、「ねぶた・ねぶた」の文献目録の作成、ねぶた・ねぶた専門図書館の企画を指導した。

青森大学では、2013 年度ゼミを担当。青森ねぶたの文献資料を使つての考察をおこなう。

[教育指導に関する特記事項]

- 1, 短期大学において図書館学のゼミを担当し、地域資料に着目した

[研究活動]

[研究テーマ]

- 1, 中国清代少数民族史
- 2, ねぶた・ねぶた文献史および書誌学

[著書、論文、総説]

- 1, 「道教年表・道教文献目録」『道教 3 道教の伝播』（平河出版社）（編集協力・共著）1983 年 8 月
- 2, 「清代雍正年間の改土帰流について—四川と貴州を中心に—」筑波大学大学院修士論文（単著）1985 年 3 月
- 3, 「広西土司と土目について—その族譜の存在を中心として—」『史峯』創刊号（単著）1988 年 7 月
- 4, 「明清宗教史研究文献目録」『史峯』第 4 号別冊（共著「明清宗教史研究文献目録」）1992 年 3 月
- 5, 『ねぶた・ねぶた専門図書館所蔵目録』青森短期大学ライブラリーコース発行・青森短期大学ホームページに掲載（単著）2005 年～2012 年 10 月
- 6, 「大学図書館で〈探す〉〈調べる〉」青森大学・青森短期大学附属図書館報『書物の森』第 23 号（単著）2010 年 7 月

[学会発表]

なし

[その他の活動]

青森短期大学において図書館学のゼミで、ねぶた・ねぶた専門図書館の企画を指導し、2005年から2012年の大学祭において一般に公開するとともに、ねぶた・ねぶたに関する文献の書誌情報を学外に提供した。

2012年8月8日、青森大学ホームページに「青森ねぶたと青森山田学園ねぶた」のエッセイ第1回目「ねぶたの歴史」を執筆

2013年3月22日、青森大学ホームページに「青森ねぶたと青森山田学園ねぶた」のエッセイ第2回目「青森山田学園ねぶたの歴史（前編）」を執筆

2013年7月15日、年青森山田学園ホームページに「青森ねぶたと青森山田学園ねぶた」のエッセイ第3回目「青森山田学園ねぶたの歴史（中編）」を執筆

2013年11月29日、年青森山田学園ホームページに「青森ねぶたと青森山田学園ねぶた」のエッセイ第4回目「青森山田学園ねぶたの歴史（後編その1）」を執筆

[公開講座、講演、セミナー]

青森県総合学校教育センターにおいて県内教員に対する司書教諭の講義「図書の整理」担当（1998年12月）

[学内各種委員]

総合研究所文化・環境研究班班員

図書委員会委員

入試管理委員会委員

学術研究会編集委員

学修支援センター員

氏名 船木 昭夫 (FUNAKI Akio)

所属 社会学部社会福祉学科

職名 教授

生年月日 1956 年 6 月 6 日

[履歴]

[学歴]

1979 年 3 月 東北福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業

[学位]

社会学士

[職歴]

1979 年 4 月 八甲病院 精神科ソーシャルワーカー

1997 年 4 月 精神障害者地域生活支援センター八甲 精神科ソーシャルワーカー

2001 年 4 月 むつ総合病院精神科 精神保健福祉士

2002 年 4 月 青森大学社会学部社会福祉学科 就任

[受賞]

東北地方更生保護委員会感謝状 2006

札幌矯正管区感謝状 2012

[所属学会]

日本精神保健士協会

SST 普及協会

[教育活動]

[担当科目]

医療ソーシャルワーク援助論、更生保護制度、精神保健福祉援助演習Ⅰ、社会福祉学演習 A・B、コミュニケーショントレーニング、精神保健福祉援助技術各論、社会福祉援助技術演習Ⅱ、人間関係とコミュニケーション、家族関係学、保健医療サービス

2013 年度

保健医療概論、コミュニケーション技術、精神保健福祉援助演習（基礎）、医療ソーシャルワーク論、精神保健福祉論、精神障害者の生活支援システム、基礎演習 A・B、精神保健福祉援助技術各論、精神保健福祉に関する制度とサービス、更生保護論

[卒業研究指導]

2007 年卒業研究： 17 名

2008 年卒業研究： 19 名

2009 年卒業研究： 2 名

[ゼミ指導]

2006 年 科学方法論演習Ⅰ・Ⅱ（2 年ゼミ）：20 名
社会福祉学演習ⅠA・B（3 年ゼミ）：19 名
2007 年 社会福祉学演習ⅠA・B（3 年ゼミ）：19 名
社会福祉学演習ⅡA・B（4 年ゼミ）：17 名
2008 年 社会福祉学演習ⅡA・B（4 年ゼミ）：19 名
2009 年 社会福祉学演習 A・B（4 年ゼミ）：21 名
2010 年 社会福祉学演習 A・B（4 年ゼミ）：16 名
2011 年 社会福祉学演習 A・B（4 年ゼミ）：14 名
社会福祉学基礎演習 A・B（1 年ゼミ）：17 名
2012 年 一般教養演習Ⅰ・Ⅱ（1 年ゼミ）：17 名
2013 年 社会学部基礎演習 A・B（1 年ゼミ）：18 名

[教育指導に関する特記事項]

- 1, 社会福祉士国家試験支援のため、特別講義を行っている。
- 2, 精神保健福祉士国家試験支援のため、特別講義を行っている。
- 3, 精神保健福祉の理解のため、学生とともに精神科病院、精神保健福祉施設等に訪問し、利用者等と交流している。
- 4, 更生保護の理解のため、学生とともに更生保護施設プラザあすなろに訪問し、利用者等と交流している。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 精神保健福祉
- (2) 認知行動療法・SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）
- (3) 福祉オンブズマン活動のあり方
- (4) 自殺予防対策

[著書、論文、総説]

- 1, 船木昭夫：「精神障害者雇用促進事業の調査・研究報告書」、青森県精神障害者雇用促進事業評価委員会編、青森県精神障害者社会復帰施設協会、2006、
- 2, 船木昭夫：「ジョブサポーター育成研修テキスト」、P110～P119 第 9 章ジョブコーチロールプレイ『障害者とのコミュニケーション』、青森県すこやか福祉事業団監修 2006、
- 3, 船木昭夫：エッセイ SST と私「SST でなにが変わるか」、こころの科学 本人・家族のための SST 実践ガイド、P 101-102、日本評論社 2008、
- 4, 船木昭夫：「青森県自殺対策取り組み検証事業報告書」、青森県自殺対策検証研究会、2011、2012

[研究費の取得状況]

- 1, 船木昭夫： 介護福祉士養成施設動向調査、1,710,000 円、青森県健康福祉部、2009、
- 2, 船木昭夫： 青森県自殺対策取り組み検証事業、3,899,500 円、青森県、2011、2012、2013

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

公開講座の企画・開催運営を担当する。

- 1, ルーテル学院大総合人間学研究科教授 前田 ケイ氏、「豊かな社会生活と人間関係力」、2008、6 月
 - 2, ホテル青森社長 久保 和見氏、「ホテル経営と心の健康」、2008、10 月
 - 3, 弘前・愛成会病院長 田崎 博一氏、「精神障害治療への取り組みの現状」、2008、10 月
- 講演、出張講義等
- 学校法人古川学園高等学校、「高校生のこころの健康」、古川市、2006、8 月
- 八戸市教育委員会、「明るい職場・家庭とメンタルヘルス」、八戸市、2006、8 月
- 青森市男女共同参画課、「メンタルヘルスについて」、青森市女性の家、2006、9 月
- 上十三地区家族学習交流会、「自分らしく生きるために」、十和田市、2006、10 月
- むつ市立角違小中学校、「未成年者の飲酒は危険です」、むつ市、2006、11 月
- 青森県立百石高校、「ストレスとコミュニケーション」、百石町、2006、11 月
- 野辺地町教育委員会、「ストレスとコミュニケーション」、野辺地町、2006、11 月
- ホテル青森職員研修「明るい職場・家庭とメンタルヘルス」、ホテル青森、2006、12 月
- 家庭裁判所調査官研修会青森家庭裁判所主催「集団援助技術と S S T」青森家庭裁判所、2007、7 月
- 社会復帰のための S S T、函館少年刑務所、2007、7 月
- 児童員養成研修会秋田県主催「集団援助技術」秋田市・横手市・大館市、2007、7 月
- 福祉オンブズマン養成講座、青森市しあわせプラザ、2007、7 月
- 青森県男女共同参画センター相談員スーパービジョン、アピオあおもり、2007、8 月
- 発達障害者中学生グループ S S T、青森県発達障害者支援センター、2007、9 月
- 青森県立百石高校、「高校生のこころに健康」、百石町、2007、10 月
- 三沢市校長会、「明るい職場・家庭とメンタルヘルス」、三沢市、2007、11 月
- 知的障害者更生施設妙光園、「明るい職場・家庭とメンタルヘルス」、2008、3 月
- カントリージェントルマンクラブ、「ストレスとコミュニケーション」、2008、4 月
- 医療法人青仁会法人研修会、講演「医療倫理について」、青南病院千葉記念ホール、2008、7 月
- 特定非営利活動法人レジオン・ラポール、「よりよい人間関係を築くコミュニケーション

とは」、青森市、2008、7 月
函館少年刑務所受刑者研修、「問題解決場面への対応・SST（生活技能訓練）」、函館少年刑務所、2008、8 月
青森県社会福祉協議会主催、介護支援専門員実務研修受講試験準備講習会、「高齢者保健・医療の基礎知識」、県民福祉プラザ、2008、8 月
青森県言語障害児教育研究会主催、言語障害部会夏季研修会、「SST（生活技能訓練）」、青森県社会教育センター、2008、8 月
青森山田高校修養会、「よりよい人間関係を築くコミュニケーション」、2008、9 月
青森少年院、SST（生活技能訓練）「危機場面での対処方法」、青森少年院、2008、9 月
青森県すこやか福祉事業団、「ストレスとコミュニケーション」、福祉プラザ、2008、9 月
青森県社会福祉協議会主催、介護福祉基礎講座、「社会福祉援助技術」、県民福祉プラザ、2008、9 月
青森県児童館連絡協議会主催、児童厚生二級指導員研修会、「集団援助活動」、アピオ青森、2008、9 月
北五中学校教育研究会、「未成年者の飲酒は危険です」、五所川原市、2008、10 月
弘前愛成会病院研修会、「SST」弘前愛成会病院研修室、2008、11 月
青森市地域包括支援センター連絡会職員研修会、「リスクマネジメント」、しあわせプラザ、2008、11 月
青森県民生委員児童委員協議会、「相談技法研修」、アラスカ会館、2008、11 月
青森市地域包括支援センター連絡会職員研修会、「ストレスコーピング」、しあわせプラザ、2008、12 月
青森県発達障害支援センター主催、中学・高校生グループ指導「SST（生活技能訓練）」、青森県発達障害支援センター、2007、6 月～2008、3 月
青森県発達障害支援センター主催、SST（生活技能訓練）リーダー養成研修会、青森県発達障害支援センター、2008、9 月～12 月
青森障害者職業センター研修会、「発達障害者への SST」、2009、1 月
函館少年刑務所受刑者研修、問題解決場面への対応・SST（生活技能訓練）」、函館少年刑務所、2009、2 月
青森県社会福祉協議会、コミュニティワーカー研修会、浅虫・海扇閣、2009、2 月
青森県立精神保健福祉センター地域生活支援研修、「認知行動療法と地域生活支援」、2009、6 月
南部町立福地中学校、「コミュニケーション方法を学ぼう」、南部町、2009、7 月
青森県消費者協会、「消費生活啓発講座」、県民福祉プラザ、2009、7 月
函館少年刑務所受刑者研修、「問題解決場面への対応・SST（生活技能訓練）」、函館少

年刑務所、2009、9 月

財団法人こころすこやか財団、福祉人材育成事業、「認知行動療法」、福祉育成人材センター、2009、10 月

むつ市社会福祉大会、「認知症を理解し、地域で支えるために」、むつプラザホテル、2009、11 月

つがる市役所職員研修、「健康教室・ストレスとコミュニケーション」、つがる市役所、2009、11 月

保育施設職員研修会、「児童福祉におけるソーシャルワーク」、しあわせプラザ、2010、1 月

青森障害者職業センター職員研修、「職場のメンタルヘルス」、青森障害者職業センター、2010、1 月

医療法人青仁会研修、「個人情報法の理解のために」、医療法人青仁会メモリアルホール、2010、1 月

財団法人こころすこやか財団福祉人材育成センター、「S S T（生活技能訓練）」、2010、2 月

十和田市ほのぼの交流事業研修会、「よりよいコミュニケーション」、十和田市総合福祉センター、2010、3 月

青森市民間福祉施設職員研修会、「ストレスとコミュニケーション」、しあわせプラザ、2010、3 月

介護老人保健施設青森ナーシングライフ、「明るい職場・家庭とメンタルヘルス」、2010、3 月

函館少年刑務所受刑者研修、「問題解決場面への対応・SST（生活技能訓練）」、函館少年刑務所、2010、3 月

青森若者サポートステーション、フリーター支援「社会人基礎力アップセミナー」、アスパム、2013、10 月、12 月

青森市若者に対する消費生活教育推進モデル事業、担当施設・青森第二養護高等学校、精神障害者通所施設クッキー、青森大学 1 年ゼミ、2013

函館少年刑務所受刑者研修、「問題解決場面への対応・SST（生活技能訓練）」、函館少年刑務所、2014、2 月

盛岡少年院入所者研修、「SST（生活技能訓練）」、盛岡少年院、2014、3 月

青森県地域生活定着支援センター処遇困難検討会、県民福祉プラザ、2014、5 月

青森市教育委員会少年指導委員研修会、「よりよいコミュニケーション」、2014、6 月

青森県日常生活自立支援事業研修会、「対人援助の方法」、県民福祉プラザ、2014、6 月

青森県立青森工業高校、「よりよいコミュニケーション」、2014、6 月

全国情緒障害児短期治療施設職員研修会、「事例検討」、ホテル青森、2014、7 月

教員免許状更新講習、「子ども、大人のための SST」、青森大学、2014、7 月

函館少年刑務所受刑者研修、問題解決場面への対応・SST、函館少年刑務所、2014、9月
青森県自殺対策連絡協議会、報告「青森県自殺対策状況」、アラスカ会館、2014、9月
青森県社会福祉主事資格認定講習会、「グループワーク」、青森県立保健大学、2014、9月
北海道・北東北情緒障害児短期治療施設職員研修会、「職場のメンタルヘルス」、2014、10月

青森県社会福祉主事資格認定講習会、「グループワーク」、青森県立保健大学、2014、11月
SST 北東北支部「中級研修会」講師、秋田県青少年交流センター、2014、11月
青森高齢・障害者雇用支援センター、障害職業生活相談員資格認定講習会、2014、11月
青森県西北中教研健康教育部会秋季研修会、「SSTと健康教育」、2014、11月
青森職業訓練支援センター、「明るい職場・家庭とメンタルヘルス」、2014、11月
秋田県鹿角市立十和田小学校 「SST講座」、鹿角市、2014、12月
盛岡少年院、入院者研修「SST」、盛岡市、2015、2月
上十三地区障がい者就労支援セミナー、「就労支援とSST」、三沢市、2015、2月
ジョブカフェあおもり、「若年者就職支援ミニセミナー」むつ市、2015、2月
ジョブカフェあおもり「社会人基礎力アップセミナー」青森市、2015、3月
青森県「こころの相談窓口ネットワーク」相談担当者研修会、アラスカ会館、2015、3月
青森県立青森中央高校、「よりよいコミュニケーション」、2015、3月

[学内各種委員]

2006年、学生委員会、組換えDNA実験安全委員、公務員受験対策講座、
2007年、入試管理委員、入試選抜委員、将来計画委員、組換えDNA実験安全委員、学際情報研究所運営委員、地域問題研究所所員
2008年、入試管理委員、入試選抜委員、将来計画委員、学生募集連絡会、学際情報研究所運営委員、地域問題研究所所員
2009年、入試管理委員、入試選抜委員、将来計画委員、学生募集連絡会、地域問題研究所所員

[学外各種委員]

青森地域広域事務組合介護認定審査委員
青森市健康福祉行政運営協議会運営委員
青森市健康福祉行政運営協議会障害者部会副部長
青森市健康福祉審議会委員
青森市障害者自立支援協議会議長
青森県女性相談所苦情処理第三者委員会委員長
青森県精神保健福祉協会評議員
青森県福祉オンブズマン研究会代表

青森県医療ソーシャルワーカー協会会長

青森県精神障害リハビリテーション研究会副会長

青森県自殺対策連絡協議会委員

青森県介護予防市町村支援委員会委員

青森県介護予防市町村支援委員会閉じこもり・認知症・うつ部会委員

青森県社会福祉協議会評議員推薦委員会委員

青森県社会福祉協議会理事

青森県福祉人材センター運営委員会担当理事

大学コンソーシアム青森協議会委員

SST 普及協会理事・北東北支部支部長

精神保健参与員

配偶者からの暴力被害者支援アドバイザー

あおもり共生社会づくり推進会議議長

氏名 長内 直人 (Naoto, Osanai)

所属 青森大学社会学部社会学科

職名 准教授

生年月日 1967年8月27日

[履歴]

[学歴]

1990年 青森大学社会学部社会学科卒業

1992年 東北福祉大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程卒業

[学位]

社会福祉学修士 1992年3月 東北福祉大学

[職歴]

1992年4月 青森短期大学 専任講師

1996年4月 青森大学社会学部社会学科 助手

1997年4月 青森大学社会学部社会福祉学科 専任講師

2014年4月 青森大学社会学部社会学科 准教授 現在に至る

[受賞]

[教育活動]

[担当科目]

ソーシャルワーク演習 A、ソーシャルワーク演習 B、ソーシャルワーク演習 C、
ソーシャルワーク演習 D、ソーシャルワーク実習指導 I・II・III、ソーシャルワ
ーク実習 I・II、 相談援助の基盤と専門職 I、相談援助の理論と方法 III、
社会保障 I、社会保障 II

[ゼミ指導]

ソーシャルワーク演習 A・B (2年ゼミ) において福祉実習の事前教育関わる
指導を
行った。

[教育指導に関する特記事項]

社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験対策委員として、国家試験対策講座を
開催している。

社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験対策のために個別に勉強会等を行っ
ている。

ソーシャルワーク実習の事前指導として補講を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 現場実習における有効的指導法。

(2) 現場実習における事前教育（感性と観察的視点の強化）の方法論について。

(3) 北欧の社会福祉（社会保障）政策について。

[著書、論文、総説]

(1) 「安楽死における死の問題」

青森大学・青森短期大学学術研究会発表会（1992年7月）

(2) 「安楽死について」

青森県保健福祉学会（1994年2月）

(3) 「高齢化社会における死の問題」

青森大学・青森短期大学研究紀要18巻一第2号（1995年11月）

(4) 「単親家族・離婚における今日的課題」

青森大学・青森短期大学研究紀要34巻一第3号（2012年2月）

(5) 「自殺における今日的課題～社会福祉・社会病理的視点から～」

青森大学・青森短期大学研究紀要35巻一第3号（2013年2月）

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

(1) 平成20年（2008年）9月27日

青森県民主医療機関連合会「欧米の社会福祉」

(2) 平成21年（2009年）3月6日

青森県福祉・介護人材確保対策事業

（進路選択学生等支援事業）

(3) 平成23年（2011年）7月16日青森県社会福祉士会実習指導者フォローアップ研

修会「実習生に対する実習指導の在り方」

(4) 平成23年（2011年）10月26日青森中央市民センター「北欧の社会福祉」

(5) 平成28年（2016年）12月18日日本社会福祉士養成校協会東北ブロック

「社会福祉士・精神保健福祉士国家試験対策講座」

その他、オープンキャンパス及び大学見学会における講義多数。

[学内各種委員会]

(1) 就職（副委員長）

(2) 実習

(3) 国家試験対策（委員長）

(4) 学生募集委員会

氏名 宮川 愛子 (MIYAKAWA Aiko)

所属 社会学部社会学科

職名 准教授

生年月日 1974 年 6 月 3 日

[履歴]

[学歴]

1997 年 3 月 日本社会事業大学社会福祉学部児童福祉学科卒業

[学位]

学士 (社会福祉学)

[職歴]

1997 年 4 月 文京区立向丘高齢者在宅サービスセンター ケアワーカー

2001 年 6 月 文京区立本郷高齢者在宅サービスセンター 主任ケアワーカー

2001 年 12 月 文京区立本郷高齢者在宅サービスセンター 主任生活相談員

2003 年 4 月 青森大学 講師 ～現在に至る

[所属学会]

日本介護学会、認知症の人と家族の会

[教育活動]

[担当科目]

基礎演習、社会学演習 V・VI、高齢者に対する支援と介護保険制度 II、介護技術演習、
ソーシャルワーク実習指導 I・II・III、ソーシャルワーク実習 I・II

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

2015 年度 社会学演習 V・VI : 15 名

2016 年度 社会学演習 V・VI : 14 名

[教育指導に関する特記事項]

1. 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の受験対策及び受験手続にかかる事務等。
2. 学生の履修等に係る個別相談及び指導。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 高齢者の生活介護
- (2) 認知症を取り巻く環境

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

<2014 年度>

- ・青森市社会福祉協議会主催介護職員初任者研修講座「介護の基本」(9月2日)
- ・青森大学オープンカレッジ「介護技術体験」(10月9日・16日)
- ・第27回介護福祉士国家試験(実技試験) 実地試験委員(2月28日・3月1日)

<2015 年度>

- ・青森市社会福祉協議会主催介護職員初任者研修講座「介護の基本」「認知症の理解」(9月2日・28日)
- ・青森大学オープンカレッジ「介護技術体験」(9月24日)
- ・第28回介護福祉士国家試験(実技試験) 実地試験委員(3月5日・6日)
- ・認知症サポーター養成講座 講師(3月9日みちのく銀行、3月16日恒和薬品)

<2016 年度>

- ・青森県介護福祉士会初任者研修「介護過程の展開」(7月19日)
- ・認知症サポーター養成講座 講師(4月6日青森銀行、6月15日太陽生命、10月12日青森県人権擁護委員協議会)

[学内各種委員]

- ・教務委員
- ・入試委員
- ・国家試験対策委員
- ・衛生委員

[学外各種委員]

- ・青森県原子力政策懇話会 委員(2011年10月～2013年10月)
- ・スペシャルオリンピックス日本・青森 事務局長(2012年2月～2017年3月)
- ・就労サポートセンターさつき 第三者委員(2016年4月～)

氏名 木原 博 (KIHARA Hiroshi)

所属 社会学部社会学科

職種 講師

生年月日 1987 年 4 月 1 7 日

[履 歴]

[学 歴]

2006 年 4 月～2009 年 3 月 早稲田大学スポーツ科学部

2013 年 4 月～2017 年 3 月 弘前大学大学院 人文社会科学研究科

[学 位]

2017 年 3 月 修士（人文学）

[職 歴]

2009 年 4 月～2012 年 3 月 早稲田大学本庄高等学院 非常勤講師

2012 年 4 月～青森大学社会学部 現在に至る

[教育活動]

[担当科目]

①基礎スタンダード科目（分担）

人間と文化 社会と環境 地域貢献基礎演習 地域貢献演習

体育実技 A 体育実技 B

②社会学科における科目

社会学概論 I（分担） 社会学演習Ⅲ・Ⅳ

③他学部における科目

スポーツマーケティング論 体育実習（陸上競技）

[教育指導に関する特記事項]

学生が積極的に参加できるような授業・講義にしていくためにも、学生とのコミュニケーションを大切にしたい。そして様々な知識や情報を提供していきたい。

[研究活動]

[研究テーマ]

同時代における民俗芸能（石見神楽）

[学内各種委員]

教務委員 エビデンス委員

氏名 中村和生(なかむらかずお)

所属 社会学部

職種 准教授

[履 歴]

[学 歴]

1988年 3月	東京都立保谷高等学校卒業
1989年 4月	東京都大学人文学部入学
1993年 3月	同上 社会学科卒
1993年 4月	明治学院大学大学院社会学社会福祉学研究科博士前期課程入学
1995年 3月	同上 修了
1995年 4月	明治学院大学大学院社会学社会福祉学研究科博士後期課程入学
1999年 3月	同上 満期 単位取得退学
2015年 1月	博士号取得 (明治学院大学)

[学 位]

博士 (社会学)

[職 歴]

1999年 4月 1日	明治学院大学非常勤講師社会学部 (2002年3月31日まで)
2000年 4月 1日	清泉女子大学非常勤講師文学部文化史学科 (2010年3月31日まで)
2002年 9月 1日	武蔵工業大学 (現東京都市大学) 非常勤講師環境情報学部 (2010年3月31日まで)
2003年 4月 1日	明治学院大学非常勤講師社会学部 (2006年3月31日まで)
2005年 4月 1日	一橋大学非常勤講師社会学部 (2005年9月30日まで)
2007年 4月 1日	明治学院大学非常勤講師社会学部 (2010年3月31日まで)
2010年 4月 1日	青森大学社会学部専任講師
2013年 4月 1日	青森大学社会学部准教授 現在に至る

[所属学会]

日本社会学会、関東社会学会、エスノメソドロジー&会話分析研究会

[教育活動]

[担当科目]

社会学概論 I (オムニバス形式)、社会学理論 I・II、文化社会学 I・II、社会思想 I・II、社会学演習 III・IV・V・VI

[卒業研究指導]

2016年度:3名

2014年度:5名

2013年度:10名

2012年度:6名

[ゼミ指導]

2016年:13名 (3年生)

2015年度:25名(2年生9名・3年生16名)
2014年度:4名(3年生)
2013年度:6名(3年生)
2012年度:11名(3年生)
2011年度:24名(2年生10名・3年生14名)

〔研究活動〕

〔研究テーマ〕

- ・ 相互行為能力のエスノメソドロジー的解明
- ・ 多様な専門実践のエスノメソドロジー的解明
- ・ 初等・中等教育の理科教育における「自然(現象)の科学的理解」の相互行為分析

〔著書、論文、総説〕

〔著書〕

- 1, 2006年5月『新版 構築主義の社会学』平英美・中河信俊(編)(第4章「『推定無罪』と科学知識の社会学」)
- 2, 2007年8月『ワードマップ エスノメソドロジー』前田泰樹・水川喜文・岡田光弘(編)(第4章「合理的であるとはどのようなことか」、第8章2節「実験する」、第8章3節「比較する/測定する」、コラム(2))
- 3, 2009年4月『概念分析の社会学』酒井泰斗・浦野 茂・前田泰樹・中村和生(編)(第8章「科学社会学における『社会』概念の変遷」、ナビゲーション3)
- 4, 2015年1月『ポスト分析的エスノメソドロジーの展望と展開——科学実践の理解可能性の探究——』(博士論文)(明治学院大学)
- 5, 2016年4月『概念分析の社会学2-実践の社会的論理-』酒井泰斗・浦野 茂・前田泰樹・中村和生・小宮友根(編)(第8章「素朴心理学からDoing sociologyへ——記述の下での理解と動機のレリヴァンス——」(共著:中村和生・森□一平・五十嵐素子)、ナビゲーション3)
- 6, 2017年2月『ワークプレイス・スタディーズ:働くことのエスノメソドロジー』水川喜文・五十嵐素子・秋谷直矩(編)(第3章「「不十分な」助言の十分な達成——電話相談における〈助言者-相談者〉という装置」)
- 7, (翻訳)2012年10月, マイケル・リンチ『エスノメソドロジーと科学実践の社会学』勁草書房(監訳:水川喜文・中村和生)

〔論文〕

- 1, 2012年「社会生活技能訓練における発話の共同産出——広汎性発達障害児への療育場面のエスノメソドロジー」『三重県立看護大学紀要』第16号(共著:浦野 茂・水川喜文・中村和生)

- 2, 2013 年「「フレーム」概念の検討——環境配慮行動の分析にむけて——」『青森大学・青森短期大学研究紀要』第 35 巻第 3 号(共著:中村和生・柏谷至・渋谷泰秀・佐々木てる)
- 3, 2013 年「「心の理論」と社会的場面の理解可能性——自閉症スペクトラム児への療育場面のエスノメソドロジーにむけて——」『年報社会学論集』(関東社会学会)第 26 号(共著:中村和生・浦野茂・水川喜文)
- 4, 2015 年「分析的エスノメソドロジーとポスト分析的エスノメソドロジー」『社会学・社会福祉学研究』144 号(明治学院大学社会学部)
- 5, 2016 年「保健医療の実践のエスノメソドロジー&会話分析研究——録音・録画メディアの利用と臨床への介入的貢献——」(共著:中村和生、海老田大五朗)『保健医療社会学会論集』第 27 号第 1 巻
- 6, 4th, July, 2016, "Being facilitator and co-member in a self-directed research of people with mental disabilities" (Co-authors: Kazuo Nakamura, Shigeru Urano, Yoshifumi Mizukawa), Atypical Interaction Conference (University of South Denmark, Denmark)
- 7, 2017 年「分析的・ポスト分析的エスノメソドロジー、あるいは概念分析」『現代思想』第 45 巻第 6 号

[学会発表]

- 1, 「科学実践への社会的アプローチ」2012 年 4 月 22 日 2012 年度応用哲学会大会(於千葉大学) (ワークショップ『哲学と社会学のコラボレーションのために(II)』)
- 2, 「ポスト分析的エスノメソドロジーの可能性」2012 年 11 月 2 日 エスノメソドロジー&会話分析研究大会(於北星学園大学)
- 3, 「Epistemics 批判の部分的考察」2017 年 3 月 26 日エスノメソドロジー&会話分析研究大会(於成城大学)

[学内各種委員]

入試選抜委員(副委員長)
社会調査士資格 連絡責任者

氏名 美濃 香 (MINO Kaori)

所属 社会福祉学科

職名 講師

生年月日 1959 年 3 月 19 日

[履歴]

1981 年 3 月 弘前学院大学英米文学科卒業

2005 年 3 月 弘前学院大学社会福祉学研究科修了

2010 年 3 月 弘前大学大学院・地域社会研究科地域社会専攻地域政策研究講座後期博士課程単位取得満期退学

[学位]

福祉学修士

[職歴]

1981 年 4 月 農用地開発公団

2008 年 4 月 青森大学 専任講師

[学会]

日本社会福祉学会

[教育活動]

[担当科目]

地域福祉の理論と方法 I・II、福祉計画論、福祉行財政論、現代社会と福祉 I・II
社会福祉学応用演習 II A・II B、ソーシャルワーク演習 C・D・E

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

2008 年 1 年ゼミ 10 名 3 年ゼミ 13 名

2009 年 1 年ゼミ 14 名 3 年ゼミ 12 名

2010 年 1 年ゼミ 10 名、2 年ゼミ 12 名

2011 年 1 年ゼミ 19 名、4 年ゼミ 4 名

2012 年 2 年ゼミ 18 名、4 年ゼミ 16 名

2013 年 3 年ゼミ 22 名、4 年ゼミ 16 名

2014 年 4 年ゼミ 16 名

[教育指導に関する特記事項]

社会福祉士国家試験対策の補講および個別指導

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 福祉政策

(2) 高齢者福祉

(3) 地域福祉

[著書、論文、総説等]

美濃香・渡部論 介護現場における問題と課題 2008.7. 青森大学・青森短期大学学術研究会研究紀要、第 31 巻、第 1 号、65-83

美濃香 高齢者福祉の変遷—高齢化社会に至る以前を中心に— 2009.3 地域社会研究、VoL.17

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

平成 19 年度社会福祉主事資格認定講習会 講義「老人福祉論」青森県立保健大学（10 月 29・11 月 2・5 日）

平成 20 年度社会福祉主事資格認定講習会 講義「老人福祉論」青森県立保健大学（11 月 3・7・10 日）

平成 21 年度社会福祉主事資格認定講習会 講義「老人福祉論」青森県立保健大学（11 月 2・9・10 日）

平成 21 年日本社会福祉士養成校協会・日本社会福祉教育学校連盟東北ブロック教職員研修会シンポジスト（12 月 5 日）

[学内各種委員]

学生募集委員会オープンキャンパス班、学生台帳、就職委員会